

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	岩 淵 輝
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>【授業の概要】例年であれば私の『問題発見テーマ演習 A』は、前年度開講の『基礎ゼミナール』で学んだ基礎知識を踏まえて実施していますが、私は前年度(2023年度)に『基礎ゼミナール』を開講していませんので、その穴埋めを兼ねて本年度(2024年度)の『問題発見テーマ演習 A』では、各自のテーマの発見のみならず基礎知識の習得も重視しつつゼミを実施します。そのため、扱う項目は本年度の『基礎ゼミナール』とよく似たものになっていますが、実際のゼミの内容は例年同様一歩進んだものになります。</p> <p>本年度は、「コロナ禍において<いのち>や暮らしがどのように扱われたか」という問題を中心に取り上げます。</p> <p>コロナ禍が始まった当初、部活やアルバイトや友達との会話を自粛しなければならなくなり、貴重な時間を有意義に使えなくなった人も多いと思います。お店の経営者の中には営業時間の短縮を要請されたことが一因となって経営破綻し自殺に追い込まれた人もいます。医療従事者や医学生の中には、自己決定権があるはずのワクチン接種を同調圧力で事実上強制された人もいます。極めて悪性の感染症が大流行した際には、ある程度の強い措置をとらざるを得ないことももちろんありますが、その場合、流行が一段落した後で本当に適切な措置だったのか、どの方面にとりだけの税金が使われたのか、その使われ方は適切だったのか、等について十分検証する必要があります。また、メディアのあり方についても検証が必要です。読売新聞、サンテレビ、CBCテレビ等の報道によると、新型コロナワクチンで健康被害を受けた死亡したりしたとして救済(医療費や死亡一時金の支給)が申請された件数が9500件以上あり、そのうち、因果関係を否定出来ないとして国が救済を認定した件数は5300件以上(厳密な医学的な因果関係は不明なものも含む)に上るそうです(2023年12月現在)。ちなみに、新型コロナワクチンに関するこの救済認定件数は、新型コロナワクチンを除く過去45年間のすべてのワクチンの救済認定件数の累計(3522件)を超えているとのこと。一部のメディアを除き大多数のメディアは最近まで、このような報道をあまりして来なかったように見受けられますが、そうだとすれば大きな問題です。メディアのあり方は私たちの「知る権利」に関わることだからです。</p> <p>ゼミの時間は、全員で読む輪読用テキストを決めて発表順番を割り当て、当番の人に発表していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。また、読用テキストとは関係なく、日ごろ自分が抱えている疑問を提示し、それについて他のゼミ生から意見をもらったりする中で、自分の考えを深めて下さい。</p> <p>【到達目標】本ゼミナールの目標は、コロナ禍でとられた対策や社会のあり方を題材に、メディアではあまり報道されない重要な情報を収集し、その真偽を検証する方法を学びながら、<いのち>や生き方についての各自の興味と考えを深め、本当に大事だと思う自分独自のテーマを発見することにあります。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 感染症全般の基礎知識</p> <p>第3回 過去の感染症の歴史</p> <p>第4回 過去の被害事件の歴史</p> <p>第5回 新型コロナウイルス感染症の基礎知識</p> <p>第6回 「命の選別」の問題</p> <p>第7回 営業時間短縮要請および外出自粛要請の問題</p> <p>第8回 同調圧力および、いわゆる「自粛警察」の問題</p> <p>第9回 ワクチン接種の問題</p> <p>第10回 予防接種の健康被害救済制度の問題</p> <p>第11回 巨額の税金の使われ方の問題</p> <p>第12回 メディアの報道のあり方の問題</p> <p>第13回 コロナ禍の全体的総括</p> <p>第14回 aのみ：まとめ</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>予備知識は必要ありません。</p> <p>輪読用の本の購入費(一学期につき数千円程度)が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始時になりますので、まだ買わないで下さい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容</p> <p>当番で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>とくに定めません。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>『新型コロナワクチンの光と影―誰も報じなかった事実の記録―』大石邦彦。方丈社、2023年。</p> <p>『検証:コロナワクチン―実際の効果、副反応、そして超過死亡―』小島勢二。花伝社、2023年。</p> <p>『ルポ「命の選別」―誰が弱者を切り捨てるのか?―』千葉紀和・土東麻子。文藝春秋、2020年。</p> <p>『つくれる病―過剰医療社会と「正常病」―』井上芳保。ちくま新書、2014年。</p> <p>厚生労働省の薬害教育テキスト『薬害を学ぼう』(https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/index.html)。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>最終授業日および最終授業終了直後に課題の解説と講評を行ないます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>授業への参加度(40%)、発表当番時の発表内容と質疑応答(40%)、他の発表者への質問と意見(20%)。</p>		
<p>9. その他</p> <p>考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	牛 尾 奈 緒 美
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>本ゼミナールでは、今一番社会に求められていること、必要なことは何なのか、問題発見のきっかけとして重要なキーワードとなるSDGsやESG経営について考えていく。</p> <p>SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標を指す。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐるとさまざまな課題に対し、民間企業をはじめ、すべてのステークホルダー(利害関係者)の取り組みが求められている。温暖化や水不足などの環境問題、人権問題や差別などの社会問題など、人類はさまざまな課題に直面しており、世界の国々や企業、個人も総力をあげ課題解決に取り組むべき時が来たといっても過言ではない。</p> <p>企業の社会的責任に対する注目も年々高まっており、企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だという考え方が世界中で広まりつつある。(ESG: 環境(E: Environment)、社会(S: Social)、ガバナンス(G: Governance)の英語の頭文字を合わせた言葉)。</p> <p>こうした観点から、本授業では、グループに分かれて特定の社会課題を発見し、その課題を設定するに至った根拠となる事例や具体的問題点を論理的に説明し口頭での研究発表を行う。適宜、社会課題に関する知識の提供として、ビデオ教材や書籍、論文・記事等の紹介も行い、情報共有を進める。</p> <p>授業の到達目標は、自分自身の問題意識を仲間と共有しながら議論し、最終的にはグループとしての研究発表にまとめ上げる能力を養うことにある。情報収集、分析、論理的思考、発表や議論でのコミュニケーション能力の向上も目指していく。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第一回 イントロダクション</p> <p>第二回 プレゼンテーション①</p> <p>第三回 プレゼンテーション②</p> <p>第四回 プレゼンテーション③</p> <p>自己紹介を兼ね各自の考える社会的課題についてのプレゼンテーション</p> <p>第五回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧①</p> <p>第六回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧②</p> <p>第七回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧③</p> <p>第八回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧④</p> <p>第九回 グループによる研究発表①</p> <p>第十回 グループによる研究発表②</p> <p>第十一回 グループによる研究発表③</p> <p>第十二回 グループによる研究発表④</p> <p>第十三回 グループによる研究発表⑤</p> <p>第十四回 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ることを。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容</p> <p>予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>適宜、提示する。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>適宜、提示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>授業内で指示する</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>授業への出席率と議論への参加状況で50%、グループ発表や課題提出状況で50%として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。</p>		
<p>9. その他</p> <p>授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常時、時事問題やニュースに関心を払い、その知識に基づき議論に参加することが求められる。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	小田 光康
1. 授業の概要・到達目標 このゼミのテーマは「経済ジャーナリズム基礎」です。このゼミでは経済ジャーナリズムで求められる経済学の基礎的な知識を習得したうえで、国の財政政策や金融政策など経済政策について分析し、報道記事を編集できる能力を身に付けることを目標とする。 このゼミでは和泉キャンパスで土曜日午前中1回(4月20日)、マスメディアとジャーナリズムに関する基礎知識を習得する講義を行う。その後、明治大学山中セミナーハウスで2泊3日(5月10日-5月12日)のワークショップを開き、グループごとの事例研究をし、最終発表を実施する。 ワークショップ形式の協働学習なのですべての授業に必ず出席することを履修要件とします。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション(和泉) 経済政策と経済ジャーナリズム 第2回 国民経済計算と主要経済指標とジャーナリズム(和泉) 第3回 財政政策とジャーナリズム(1) 第4回 財政政策とジャーナリズム(2) 第5回 金融政策とジャーナリズム(1) 第6回 金融政策とジャーナリズム(2) 第7回 雇用とジャーナリズム 第8回 物価水準とジャーナリズム 第9回 各種経済報道の事例研究に関するグループワーク(1) 第10回 各種経済報道の事例研究に関するグループワーク(2) 第11回 各種経済報道の事例研究に関するグループワーク(3) 第12回 各種経済報道の事例研究に関するグループワーク(4) 第13回 経済報道の事例研究発表(1) 第14回 経済報道の事例研究発表(2)		
3. 履修上の注意 このゼミの学習内容はマクロ経済学を基盤にしています。この教科を事前に履修しておくことが望ましい。高校「政治経済」の経済分野を学生が理解している前提でゼミを進めます。 このゼミは4月20日土曜日午前中に和泉キャンパスで1回、明治大学セミナーハウスで5月10日午後から12日正午まで2泊3日の合宿形式で実施します。ワークショップ形式の協働学習なのですべての授業に出席することを履修要件とします。合宿参加費として約1万5千円が必要です。パソコンは各自用意すること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 新聞の経済記事は毎日必ず目を通すこと。		
5. 教科書 毎回のゼミで配布します。		
6. 参考書 高校「政治経済」の教科書、学部レベルの一般的なマクロ経済学の教科書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 合宿での研究発表について学生からの質疑応答や教員からの補足・助言でフィードバックをします。		
8. 成績評価の方法 ワークショップへの参加度(50%)とアウトプット内容(50%)で評価する。全授業の出席を成績評価の条件とする。		
9. その他 学生同士である経済関連の時事問題を見つけ、それを徹底的に考え抜き、そのまとめを発表し、学生同士で議論するアプローチを学んでください。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	川島 高峰
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 このゼミナールでは、今日、大転換期にある世界と日本の中で、これからの日本人/日本国とその歴史背景について次の観点から学び、新しい日本を考えることをします。 君たち学生世代は、第3期日本人ではないか、という想定で、第1期日本人(幕末から1945年敗戦まで)と、第2期日本人(戦後から1989年の冷戦崩壊もしくは2000年まで)について、その特徴を先生なりの観点からまとめていきます。そのうえで、第3期日本人(冷戦後もしくは2000年代以降)の可能性とは何なのか、そのことについて考えることとします。 到達目標 新しい日本、新しい日本主義(保守主義)を構想することです。		
2. 授業内容 第1回 保守とは何か? 革新とは何か? 保守主義的気質と革新主義的気質 第2回 日本とは何か? 日本否定論と肯定論 日本文化論の系譜 第3回 第1期日本人の形成 「国学」の形成と尊王攘夷・文明開化という自己規定 第4回 第1期日本人の逡巡 『真善美』/『偽悪醜』・日本人の『生々流転』 第5回 第1期日本人の転機 列強・士魂商才への総力戦とソ連邦登場の衝撃 第6回 第1期日本人によるもう一つの日本発見、イエームラークニのイデオロギーから民俗学による里山海の民 第7回 第1期日本人の総力戦 近代の超克から特攻の思想へ 第8回 第1期日本人の終焉 などてすめろぎは人となりたまいし 第9回 第2期日本人への大転換 拝啓マッカーサー元帥殿 第10回 第2期日本人の形成と完成 高度国防国家から高度経済成長国家・日本列島改造計画へ 第11回 第2期日本人の逡巡と終焉 太陽の塔から冷戦崩壊・天皇崩御・バブル崩壊 第12回 第3期日本人と失われた30年 第13回 改めて吉本隆明『共同幻想論』を読む 日本を日本により考えた 第14回 第二次日本列島改造計画		
3. 履修上の注意 本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修を強くおすすめします。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 内閣府の重点政策に関する文書は良い参考になるでしょう。		
5. 教科書 授業時にURLもしくはアップロードします。		
6. 参考書 「不安な個人、立ちすくむ国家」- 経済産業省 https://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf 「Society 5.0 実現に向けて Society 5.0 実現に向けて」- 内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/infra_fukkou/12kai/sanko2.pdf		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。		
8. 成績評価の方法 講義に対するコメントで成績評価を行う。4回程度、実施予定であり、提出回数と内容で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	清原 聖子
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 2016年アメリカ大統領選挙以降、「フェイクニュース」という言葉が世界的に広まり、ソーシャルメディア上でフェイクニュース（偽情報）の拡散が大きな問題となった。それから8年、2024年のアメリカ大統領選挙では、生成AIによる偽の選挙CMが問題になっており、政治的な偽情報の拡散による民主主義への影響がますます懸念されている。情報の信頼性が問われる現代社会において、我々は何のような点に気をつけて情報を取捨選択すればよいのだろうか。 本ゼミナールの目標は、教科書の輪読をベースとして、「フェイクニュース」の問題にどう対処していけば良いのか、グループワークを通じて履修者が自ら検討することにある。そして、現代情報社会で生き抜く目を養ってほしい。		
【到達目標】 到達目標は、3・4年次のゼミでの研究にも役立つように、グループワークとして問題を発見し、分析する力やプレゼンテーション能力を高めることである。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨN 第2回 教科書輪読① 第3回 教科書輪読② 第4回 教科書輪読③ 第5回 教科書輪読④ 第6回 教科書輪読⑤ 第7回 教科書輪読⑥ 第8回 教科書輪読⑦ 第9回 ゲストスピーカー 第10回 グループ研究発表準備① 第11回 グループ研究発表準備② 第12回 グループ研究発表① 第13回 グループ研究発表② 第14回 グループワーク振り返りレポート作成／まとめ *授業内容や順番には変更の可能性があります。		
3. 履修上の注意 無断欠席をしないこと。グループワークを行うため出席重視。教科書、ノートPC又はタブレット端末を授業に各自持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教科書の指定された箇所を読んでディスカッションに臨むこと。日ごろから政治ニュースに関心を持ち、テレビや新聞、オンラインニュースなどで情報収集をすること。		
5. 教科書 『フェイクニュースに震撼する民主主義—日米韓の国際比較研究』清原聖子（編）、大学教育出版、(2019)		
6. 参考書 『ソーシャルメディア解体全書—フェイクニュース、ネット炎上、情報の偏り』山口真一、勁草書房（2022年） 『フェイクニュースの生態系』藤代裕之（編著）、（青弓社）2021年 『ネットは社会を分断しない』田中辰雄、浜屋敏、（角川新書）2019年 『メディア不信—何が問われているのか』林香里、（岩波新書）2017年 その他授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜授業時間内にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加貢献度）60%、グループ研究発表30%、グループ研究発表振り返りレポート10%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	熊田 聖
1. 授業の概要・到達目標 このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらおう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。 思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる 過去のテーマ例 ・USJかディズニーランドか ・仕事はやりがい給料か ・自転車は乗れるようになっておくべきか ・ファンデーションはカバー力かテクスチャーか		
SHOW (A)：理科の実験を小学生に伝えるつもりで分かりやすく発表しよう。 SHOW (B)：質疑応答の形式で発表しよう。 SHOW (C)：自由に発表しよう。		
なぜSHOWをするのか、なぜ理科実験の形式なのか、半期を通して考えてみましょう。		
エンターテインメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。 その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。		
SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。		
【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。		
2. 授業内容 第1回 発表スケジュール決定、名札作成 第2回 SHOW (A)・思索トレーニング 第3回 SHOW (A)、思索トレーニング 第4回 SHOW (A)、思索トレーニング 第5回 思索トレーニングディベート 第6回 SHOW (B)、ディベートのテーマに関する感想提出、思索トレーニング 第7回 SHOW (B)、思索トレーニング 第8回 SHOW (B)、思索トレーニング 第9回 SHOW (C)、思索トレーニング 第10回 SHOW (C)、思索トレーニング 第11回 SHOW (C)、思索トレーニング 第12回 商品開発ゲーム 第13回 仕掛け学に基づくアクティビティ (1) 第14回 仕掛け学に基づくアクティビティ (2)		
3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。使用する教科書の実践編がゼミです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。		
5. 教科書 熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。		
6. 参考書 授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。		
8. 成績評価の方法 評価は、 1) レジュメと発表内容 30% 2) 発表者へのアドバイス 30% 3) ディベートへの参加 20% 4) 思索トレーニングへの参加 20% 以上4点で行います。		
9. その他 男女比約1：1で楽しく仲良く活動しています。 教科書はゼミ費より支給します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	高馬 京子
1. 授業の概要・到達目標 フランス語を用いてファッションの課題を考える。 フランスはルイ14世の頃、ドイツの社会学者ノベルト・エリアスが述べるように宮廷社会にとってファッションは自分の地位を示すコードの一つであった。また、当時財務総監のコルベールは「フランスにとってモードとは、スペインにとってのベルーの金山のようなもの」と言ってファッション産業を推進した。19世紀フランスでは、ブルジョワジーの台頭とともに、衣服は自分の豊かさや地位を表すための記号として使われ、そしてイギリス人ウォルトによるパリオートクチュールが創設される。また、第二次世界大戦後、ファッションデザイナーのクリスチャンディオールが提案したフレアスカートはアメリカのファッション雑誌の編集長にニュールックと名付けられ、そのスタイルは日本も含め世界中に広がった。このように長きにわたってフランスは世界のファッションの中心であったといえる。1960年代以降「ユースクエイク（若者たちの声や行動が巻き起こした政治、文化、社会の地殻変動）」が始まり、ファッションは現代に続く若者の時代、そして、多様性の時代に向かうことになり、フランス以外にも多くの都市、また、デジタルテクノロジーの発展により大手ファッションメディア、ファッションブランド以外にもさまざまなレベルでファッションは発信、展開されるようになった。しかし、多様性が謳われる今日でも、その多様性をも「占有」しながら世界のファッションを牽引する中心的な国としてフランスは位置付けられていることには変わりがない。 このように、フランスを代表する文化の一つでもあり、現代情報社会をいち早く映し出し、また、社会を作り出してもいくファッションを題材とするフランス語（日本語訳あり）のテキストを講読し、議論することでフランス語、フランス文化、フランスの考え方を学びながら、フランスをとファッションを鑑み、現代社会の課題を発見することを到達する目標とする。		
2. 授業内容 授業の前半をフランス語のファッション論（ロラン・バルトモード論集）講読（発表）、後半を現代コミュニケーション中心でファッションを題材にフランス語学習、運用を試みる。 第一回 イントロダクション 第二回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：ファッションデザイナー、クリエイターの世界 第三回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：流行 第四回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：洋服 第五回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：ファッション・クリエイターの作品 第六回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：アクセサリー 第七回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：ファッションの製作過程 第八回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：ファッションショー 第九回 a 講読 b コミュニケーションテーマ：プティック 第十回 a 講読 b コミュニケーション運用：ファッションの歴史①1920-1930 第十一回 a 講読 b コミュニケーション運用：ファッションの歴史②1940-1950 第十二回 a 講読 b コミュニケーション運用：ファッションの歴史③1950-1960 第十三回 a 講読 b コミュニケーション運用：ファッションの歴史④1970-2000 第十四回 発表		
3. 履修上の注意 1年次にフランス語履修しているか、それと同等のフランス語能力があること（仏検4級レベル） もしくは、フランス語学習に意欲的に取り組むことがあることが望ましい。 授業の進行状況、履修者の状況によって内容が若干変更することもある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週に次の授業で用いるテキストを配布するので、その予習をしっかりとすること（フランス語のテキストの場合は、わからない単語など調べて理解すること） 毎回授業の課題としてミニレポートを復習として提出すること。		
5. 教科書 『ロラン・バルトモード論集』山田登世子訳 ちくま学芸文庫 2011年（コピーを配布します） Parlons Mode, CLE International（コピーを配布します）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行う		
8. 成績評価の方法 平常点50%（授業の課題、発言、ミニレポートの提出など） 発表、最終レポート50%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	後藤 晶
1. 授業の概要・到達目標 テーマ： 「社会科学・行動科学のためのデータサイエンス入門」 授業の概要： 我々の生活は、常にデータに付きまといわれている。例えば、メールやGPSによる位置情報やECサイトによる購入情報などの大規模な行動データやSNSでのやりとりなどはその典型例である。これらのデータは大量に存在しており、様々な人間行動を反映している。これからの時代には、「データ」に対する理解は必要不可欠となるであろう。 昨今では、「計算社会科学」という学術領域が確立されつつある。これはビッグデータや集合知などに関するモデリングや、SNS解析、インターネットを用いた調査法、オンライン実験などの手法を用いて、定量的に社会科学的な課題にアプローチする研究領域である。計算社会科学はコンピュータ技術の発展に支えられており、その技術発展によって社会科学研究の新たなフロンティアが創出され、社会科学研究の潮流に大きな影響を与えつつあるが、いずれの研究においてもビッグデータと呼ばれる「大量のデータ」を適切に分析し、うまく「付き合う」能力が必要となる。 本演習では、このような「ビッグデータ」の時代を乗り越えるために、社会科学・行動科学で活用するためのデータサイエンスの基礎を学ぶ。具体的には、フリーの統計ソフトであるRを用いてデータ分析の基礎を学ぶ。この中でも、記述統計量の算出とデータの整理と可視化、およびRMarkdownを用いたレポート作成（報告資料の作成）について学ぶ。 なお、本演習ではデータサイエンスに関わるプログラミング要素も学ぶが、過去のプログラミング経験は問わない。過去にプログラミングを学んだことがない学生も臆せず参加してほしい。 到達目標： 1. データサイエンスの重要性を説明できる。 2. 記述統計量の意義を理解できる。 3. 必要に応じたデータの整理と可視化ができる。 4. RMarkdownを用いた報告資料の作成ができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 記述統計量の算出 (1) 第3回 記述統計量の算出 (2) 第4回 記述統計量の算出 (3) 第5回 データの整理 (1) 第6回 データの整理 (2) 第7回 データの整理 (3) 第8回 報告資料の作成 (1) 第9回 報告資料の作成 (2) 第10回 報告資料の作成 (3) 第11回 データの可視化 (1) 第12回 データの可視化 (2) 第13回 データの可視化 (3) 第14回 総括		
3. 履修上の注意 ・演習形式の授業であるために、出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料を用意して出席すること。 ・この科目ではRおよびRStudioを用いる。授業でも紹介するが、自宅のPCにもRおよびRStudioをインストールすること。 ・この科目ではBYOD (Bring Your Own Device) を前提とするため可能であればノートPCを持参すること。ただし、持っていない場合でも履修に大きな問題はない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小課題の提出・発表の準備等が必要となる。		
5. 教科書 『改訂2版 RユーザーのためのRStudio [実践] 入門』、松村優哉、湯谷啓明、紀ノ定保礼、前田和寛、技術評論社		
6. 参考書 必要に応じて紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。		
8. 成績評価の方法 毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30% ・毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。 ・課題の評価：発表資料を評価する。 ・レポート：学期末にレポートを課す。		
9. その他 演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「問題発見テーマ演習A」と「問題発見テーマ演習B」は異なるテーマを中心とするために連続して受講することを勧める。しかし、必ずしも連続した受講を前提としない。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	小林 秀行
<p>1. 授業の概要・到達目標 この講義の趣旨は、学習を通して、課題の発見・情報の入手・情報の整理・プレゼンテーション・レポート作成など、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることにあります。講義の到達目標は、「正解のない問いへの向き合い方を獲得すること」「自ら問題設定ができる能力を獲得すること」「自然災害に関する基礎的知識を獲得すること」の3点とします。気候変動の影響を受けて世界的に増加傾向にある自然災害だけでなく、戦争や迫害、感染症、公害など、人類の歴史は「災禍 (catastrophe)」と向き合い続けてきた歴史だともいえます。このような災禍はわれわれの生活を脅かし、時にはそのあり方を大きく変化させるため、様々な形のつながりを通じ、その変化に対応しようとしてきたことは、現代社会の姿をみても理解できる場所かと思えます。この際、われわれは言語や絵画、音楽、映像、舞踊やモニュメントなど、多様な形のコミュニケーションを通して、災禍と向き合い、そして災禍の経験を継承しようとしてきました。現代社会でコミュニケーションといえば、マスメディアやSNSがすぐに思い浮かんでくるかもしれませんが、このように社会の中で行われるコミュニケーションはきわめて多様であり、とりわけ人命がかかわる災禍をめぐる場合は、その1つ1つが試行錯誤のなかで紡ぎだされてきました。本講義では、このような事実を背景として「災害の捉え方を発見する」を春学期・秋学期の共通テーマに設定し、社会が災禍、とくに自然災害をどのように捉えてきたのかについて、「ゼミナール形式」で講義を展開します。春学期の問題発見テーマ演習Aでは、とくに災害というテーマについて、受講生の皆さんが自ら問題を発見し、問いを立てることに主眼を置き、学んでいきます。具体的には、まずは教科書に書かれたキーワードを手がかりとしながら知識を深め、徐々に自身の関心を絞り込んでいくという作業を行っていくことになります。講義中はその作業を進めるとともに、中間発表によって相互に学び合う機会を設けます。なお、述べたように本講義では災禍、とくに自然災害を対象としています。災禍の議論は、常に、それによって苦しむ人々の存在と向き合うことになり、決して明るい話題とは言えません。しかし、誰かがそうした問題を議論し、解決のための道筋を考えなければ、社会には苦しむ人々が残されたままとなります。本講義は、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることを主たる目的としており、どのような学生の受講も妨げるものではありませんが、上記の趣旨に賛同し、こうした問題について学んでみたいという学生を特に歓迎します。</p>		
<p>2. 授業内容 第01回 イントロダクション 第02回 問いの立て方を学ぶ① 第03回 問いの立て方を学ぶ② 第04回 キーワードから探る・学ぶ① 第05回 キーワードから探る・学ぶ② 第06回 キーワードから探る・学ぶ③ 第07回 キーワードから探る・学ぶ④ 第08回 問いに近づく・問いを立てる① 第09回 問いに近づく・問いを立てる② 第10回 問いに近づく・問いを立てる③ 第11回 問いに近づく・問いを立てる④ 第12回 問いに近づく・問いを立てる⑤ 第13回 問いに近づく・問いを立てる⑥ 第14回 最終報告会 (担当教員の判断により、適宜変更することがあります。)</p>		
<p>3. 履修上の注意 ○本講義は主としてゼミナール形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意思がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。 ○環境への配慮、感染症に対する感染防御の観点から、配布物やリアクション・ペーパー等はすべてoh-meijiを通して行います。そのため、講義中にPCおよびタブレット端末を用いて資料を閲覧することを認めます。紙媒体で資料を用意するよう指示があった場合や、必要を感じた場合は各自で印刷をお願いします。 ○なおスマートフォンについては、資料閲覧を行うには一覧性が低すぎるという理由から使用を禁じます。PCもしくはタブレット端末をご利用ください。</p>		
<p>4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 予習：専門書を読む、資料館を訪れるなど、積極的に問いを発見する努力をし、計画的に作業を進めておくこと。 復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。</p>		
<p>5. 教科書 特になし。適宜資料を配布します。</p>		
<p>6. 参考書 特になし。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 講義への主体的な参加 (50%)、期末レポート (3,000字以上) (50%) なお、指定感染症など大学が認める理由以外で4回以上欠席した場合、いかなる事情によっても単位認定を行わないので注意すること。</p>		
<p>9. その他 自然災害は社会の実像を映し出す鏡ともいわれます。決して明るいテーマとは言えませんが、自然災害を正面から見据えることで、当たり前と思っていた現代社会にも、多くの疑問が浮かんできます。3年次以降、自分なりの問い、専門分野をもちたいと考えつつも、未だ見つかっていないという学生には、それを発見する一助になるかと思えます。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	坂本 祐太
<p>1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 「勝手に部屋の掃除をしてくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に料理を作ってくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に荷物を運んでくれるロボットがあればいいのに」 といった我々人間の多くの願い (欲望) は、これまで人工知能によって叶えられてきました。近年の人工知能の発達が目覚ましく、将棋・囲碁・チェスの世界では一流のプロをも打ち負かし、我々人間の知能を分野によっては遥かに凌駕しているのが現実です。皆さんも「人工知能の発達によって、我々人間の仕事が将来無くなるのではないか…」という議論を一度は耳にしたことがあるかもしれません。 本ゼミナールでは、人工知能に関する物語を読み進める中で、「人工知能と我々人間は何が違うのか」という問いに「ことば」の観点から迫ることを目標とします。春学期の問題発見テーマ演習Aで教科書として扱う物語の中では、働くことに嫌気が差しているイタチたちが「して欲しいことを言うだけで、勝手にやってくれるすごいロボットの計画」を立て、その制作に向けて奮闘していく姿が描かれています。イタチたちが望むロボットは当然ことばを理解しなければいけません。我々人間と同じレベルでロボットがことばを理解することは可能なのでしょうか。そして、そもそもことばを理解するとはどういうことなのか。このような問いに取り組み中で、「人工知能の仕組み」だけではなく、我々人間が日常的に他者とコミュニケーションをとる際に行っている「ことばの理解」の仕組みについて考えていきます。 また、ゼミナール後半では、まとめとして教科書で学んだことをベースに人工知能に関するトピックをグループ単位で自由に設定し、調査を行い、その結果を発表していただきます。 ＜授業の到達目標＞ ・文献の重要点を簡潔にまとめ、他者に分かりやすく伝える力を身につける ・人工知能と人間の違いについて自分のことばで他者に伝える力を身につける</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 「言葉が聞き取れること」 第3回 「おしゃべりができること」 第4回 「質問に正しく答えること」 第5回 「言葉と外の世界を関係づけられること」 第6回 「文と文の論理的な関係が分かること (1)」 第7回 「文と文の論理的な関係が分かること (2)」 第8回 「単語の意味についての知識を持っていること」 第9回 「話し手の意図を推測すること」 第10回 グループワーク① 第11回 調査計画の発表 第12回 グループワーク② 第13回 グループワーク③ 第14回 調査報告及び春学期のまとめ</p>		
<p>3. 履修上の注意 プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って参加することが望ましい。また、プレゼンテーションの担当になった場合は、責任をもって準備を行うこと。履修上、人工知能に関する知識は一切必要ありません。 また受講者の興味関心により使用するテキストや内容を変更することがありますので、教科書の購入はゼミが始まってからにしてください。</p>		
<p>4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 ＜予習＞物語の精読・発表の準備 ＜復習＞授業内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理</p>		
<p>5. 教科書 『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』川添愛 (朝日出版社)</p>		
<p>6. 参考書 特になし</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール科目なので、メール等で個別に行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 授業への貢献度60%、プレゼンテーション40%</p>		
<p>9. その他 教員が担当している「言語学」の授業及び文学部開講の「英語学概論」「統語論」「音声学」の授業などを併せて履修すると、問題発見テーマ演習Aでの活動に有益かと思えます。春学期・秋学期共に人工知能(AI)をテーマに扱いますが、物語はそれぞれ独立したものをを用いるため、問題発見テーマ演習Aのみの履修も歓迎します。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	清水 晶紀
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 お酒の法律学 20歳になる(なった)みなさんにとって一番劇的かつ身近な変化は、お酒が「解禁」になることでしょうか。これは、法律が20歳未満の飲酒を禁止しているからです。実は、お酒をめぐるは、製造・流通・販売・消費・廃棄の各段階で、様々な法律が関係しています。そこで、本演習では、私たちに身近な「お酒」を素材に、法律学の基礎的な思考方法を身につけてもらいたいと考えています。 具体的には、「お酒」に関わる憲法・民法・刑法の各分野の裁判例を検討することによって、各法分野の特徴や発想を把握してもらうとともに、「お酒」の世界を通じて、法律学が私たちの社会生活の基礎を形成する身近な学問だということを実感してもらいたいと思っています。 これからの人生において、お酒を嗜む(予定の)みなさんは勿論、そうでないみなさんも、社会生活上の色々な場面でお酒の問題と接点を持つことになるでしょう。お酒の世界を通じて、法律学の世界と一緒に覗いてみませんか。</p> <p>【到達目標】 ・法律学の全体像を大まかに把握できていること ・法的な発想に基づいて演習中の議論を行えていること ・基本的な法律用語を独力で使いこなせていること</p> <p>2. 授業内容 1. イントロダクション(自己紹介・演習の進め方) 2. 図書館ガイダンス 3. 報告・ディベートの作法 4. 法学入門①〈刑法〉 5. ディベート準備①〈刑法〉 6. ディベート①〈刑法〉 7. 映画視聴 8. 法学入門②〈民法〉 9. ディベート準備②〈民法〉 10. ディベート②〈民法〉 11. 施設見学 12. 法学入門③〈憲法〉 13. ディベート準備③〈憲法〉 14. ディベート③〈憲法〉</p> <p>※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。</p> <p>3. 履修上の注意 参加者のみなさんの希望によっては、施設見学(ビール工場、ウィスキー工場、酒蔵、ワイナリー等)の実施を検討します。その際には、演習時間外に実施する可能性があります。</p> <p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 報告・ディベート等の準備は、演習時間外に行うことになります。また、担当教員としては、演習で企画する各種イベントへの参加も、広い意味で「学習」の一環と考えています。</p> <p>5. 教科書 特に指定しません。</p> <p>6. 参考書 適宜指示しますが、「お酒の法律学」に関わる入門書として、松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫『はじめての法律学〔第6版〕』(有斐閣・2020)を挙げておきます。</p> <p>7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。</p> <p>8. 成績評価の方法 演習は学生主体のクラスのため、出席は当然の前提です。その上で、演習での報告内容(50%)、議論への参加状況(30%)、レポート内容(20%)を総合的に評価します。</p> <p>9. その他 「演習の主役」は学生であり、この演習を楽しくするのも、つまらなくするのも、みなさん次第です。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	鈴木 健
<p>1. 授業の概要・到達目標 「問題発見ゼミ：映画研究と映画批評」 鈴木 健 (tsuzuki@meiji.ac.jp)</p> <p>■ 演習テーマ：メディア研究の中でも主要な位置を占めるフィルム・スタディーズについて学びます。半年間で映画批評ができるようになるための知識と方法論を身に付けます。 ■ 授業内容：情報コミュニケーション学部卒業までに、あなたは何かができる学生になりたいですか？ もしも、あなたの答えがポップカルチャーに表れた事象を「批判的文化実践」(critical cultural practice)として批評できる人ならば、フィルム・スタディーズを学んでみませんか。このゼミでは、映画を通じて心理描写という人間の内面と社会問題という外面を、フォーマリズムやリアリズムなどの伝統的映画の分析手法、物語論、作家研究、ジャンル分析を通じて、それらの内実、意義、課題について考察します。</p> <p>2. 授業内容 第1回 イントロダクション：映画批評とは何か 第2回 なぜ映画批評をするのか 第3回 どのように映画批評をするのか 第4回 監督研究と映画批評 第5回 物語の展開パターン 第6回 ジャンル分析 第7回 物語批評の枠組み 第8回 物語論と神話分析 第9回 記号論 第10回 社会批評 第11回 精神分析批評 第12回 イデオロギー批評 第13回 ジェンダー批評 第14回 ゼミ論プレゼンテーション</p> <p>3. 履修上の注意 ■ 毎回、担当者によるプレゼンテーションや全員による議論をする。特に、コミュニケーション論に興味のある学生の履修を希望する。</p> <p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ■ (学生へのアドバイス) 授業にはきちんと予習して望むことを必須条件とする。</p> <p>5. 教科書 ■ 教科書：初回の授業はコピーを配布するが、第2回目以降は教科書のファイルをコピーして授業に臨むこと。</p> <p>6. 参考書</p> <p>7. 課題に対するフィードバックの方法 ・毎週の授業では、発表担当者が教科書プラスアルファの事例研究や追加リサーチのプレゼンテーションを行う。履修生からのコメントを受けた上で、担当教員がフィードバックを行う。</p> <p>8. 成績評価の方法 ■ 評価方法：1～2回のプレゼンテーションと毎回のクラスディスカッションへの貢献度(全体の50%)を加味して、成績評価をする。出席と予習を重視する。5～8ページの最終レポート(全体の50%)を提出してもらう。</p> <p>9. その他 ■ 1年次に「メディア批評」を履修していなかった場合には、できるだけ2年次に履修しておくこと。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	鈴木 雅博
1. 授業の概要・到達目標 従来の研究では、まず研究者が対象に関わる概念を定義づけ、それを起点にデータを収集・分析し、一般化可能な知見を導き出す、といったことが試みられてきました。これは自然科学に範をとったものですが、社会(科)学が対象とする、当事者たちは、研究者が外挿する定義とは関係なく、自分たちなりに何らかの概念を参照して日常生活を送っています。しかもそれは、参照されることもあれば、されないこともあり、そうでありながらも当のその人たちは意識するまでもなく十分にそれを使いこなしているという代物です。 例えば、「授業」について研究者が定義を与えたとしても、人びとはそれに従って「授業」をしているわけではないでしょう。むしろ「授業」はその場の人びとの具体的なやりとりのなかで、それとして達成されているのです。一つの例を考えてみましょう。教師が「今、授業中ですよ」と発言する時、私たちはそれを単なる事実の報告ではなく、不真面目な生徒への「注意」として聞いています。「生徒」には「授業を真面目に受ける」ことが、「教師」には「授業中に不真面目な生徒を注意する」という活動がそれぞれ規範的に結びついており、こうした概念間の結びつきが先の発言を「注意」として成り立たせています。 しかし、人びとはこうした規範を内面化し、それに従って生きていくわけではありません。生徒のなかには教師の注意に対し、「は？うぜんんだよ、おっさん」と答える者もいるでしょう。確かにその教師は「おっさん」であり、そのこと自体は「正しい」のですが、おそらく教師は「そうです、私がおっさんです」とは感じないでしょう。彼が「教師である」ことを達成できるか否か、すなわち「教師/おっさん」のどちらがその場において有効な枠組みとなるかは、外から与えられる定義や制度ではなく、その場のやりとりにかかっているのです。 このような、その場のやりとりをそれとして理解可能なものとしている人びとの方法の論理、ならびにそれを明らかにする研究をエスノメソドロロジーと呼びます。これは「今、授業中ですよ」といった教師の「注意」を数えたり、発言をめぐる教師や生徒の心理を聴きだすことで「授業」に関する何らかの仮説を生成/検証しようといったプログラムではありません。そうではなく、エスノメソドロロジーは、私たちがその発言を「注意」として理解する／してしまうことをめぐる「授業/教師/生徒」といった概念間の布置やその達成を人びとの実践に即して明らかにすることを目指します。 本演習の到達目標は、エスノメソドロロジーの基礎を理解することです。授業は文献の読解と討論によって進められます。人びとの実践を明らかにするとはいかなることなのか、一緒に学んでいきましょう。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 エスノメソドロロジーとは何か① 第3回 エスノメソドロロジーとは何か② 第4回 エスノメソドロロジーとは何か③ 第5回 エスノメソドロロジーと自己省察 第6回 家族生活と日常会話 第7回 公共の場所に出かける 第8回 助けをもらうためにトークを使う 第9回 教育を観察する 第10回 医者にかかる 第11回 組織のなかで働く 第12回 「日本人である」ことをすること 第13回 成員カラゴリーの管理：「ホットロッダー」 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 問題発見テーマ演習B(学校社会学入門)でもエスノメソドロロジーに関連する文献を検討するので、あわせて受講することをお勧めします。 欠席5回で評価対象外となります。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『エスノメソドロロジーへの招待』 フランシス/ヘスター著、中河伸俊・岡田光弘・是永論・小宮友根訳、ナカニシヤ出版、2013。 『ワードマップ エスノメソドロロジー』前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編、新曜社、2007。 『相互行為分析という視点』西阪仰、金子書房、1997。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行います。		
8. 成績評価の方法 議論への参加態度(20%)、レポーターとしての発表(80%)。		
9. その他 ゼミで聞いたこと/言ったこと/言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	関口 裕昭
1. 授業の概要・到達目標 「メルヘン研究」 グリム童話を中心にメルヘンを様々な角度から考察します。 まず、グリム童話「白雪姫」の原テキスト(最終版=第7版、1857年版)を日本語訳(拙訳)で読み、それが初版(1812年版)から版を重ねるにつれてどのように書き換えられてきたのか、また変更された理由を考えます。また原テキストとさまざまな絵本の比較を通して、時代や対象年齢などに応じてどのように書き換えられているのか、またその理由も考えます。さらに「いばら姫」「ラプンツェル」「灰かぶり(シンデレラ)」などのプリンセスものを、ディズニーをはじめとするさまざまな映画と比較検討し、時代にに応じて道徳観や女性のイメージがどのように変化し、受容されたかを考察します。 次に「ヘンゼルとグレーテル」を題材にして、絵本の比較のみならず、その作品が日本でどのように読まれ、別の文学作品に書き換えられていったのかを多和田葉子らの作品をもとに考えます。 最後に、日本をはじめ世界各地のメルヘンと比較して、共通点と相違点を探ります。 テキストを精読し、モチーフ文蔵も版の比較など、基礎的な文学テキストの解説方法を身につけます。また文学と映画、アニメなど様々なジャンルを比較考察する手法を学びます。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション——メルヘンとは何か？ 第2回 グリム童話「白雪姫」の原典(第7版)精読 第3回 「白雪姫」の様々な絵本の比較 第4回 「白雪姫」の初版と最終版の比較 第5回 「白雪姫」の分析—類型、モチーフ、アダプテーションなどの視点から 第6回 グループごとのミニ・プレゼンテーション 第7回 グリム童話におけるプリンセスものを読む①—「いばら姫」 第8回 グリム童話におけるプリンセスものを読む②—「ラプンツェル」 第9回 グリム童話におけるプリンセスものを読む③—「灰かぶり(シンデレラ)」 第10回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」精読 第11回 「ヘンゼルとグレーテル」のさまざまな絵本の比較 第12回 「ヘンゼルとグレーテル」の日本における受容 第13回 学期末プレゼンテーション① 第14回 学期末プレゼンテーション②+まとめ (以上はおおよそそのスケジュールで、受講生の希望も聞きながら変更することがあります)		
3. 履修上の注意 ・10日以上出席しないと単位は取得できません。 ・授業中の飲食、スマホ利用を禁止します。大学の勉強ではノートの取り方も重要ですので、このゼミでは自分の手で要点をまとめていくことも学んでもらいます。プレゼン時には1枚のレジュメ(紙媒体)を作って、参加者に配布することを求めます。したがって、授業の際もいつもスマホを覗き込む癖の抜けない人の受講は薦められません。 毎年思うのですが、大学での学習で一番重要なのは「積み重ね」であり、あるテーマを深く掘り下げることです。広い視野を持つことは大切ですが、だからといってむやみに広く浅く学ぶだけでは本當の学問は身につけません。このゼミナールは「問題発見」と銘打たれているように、3年生、4年生の「問題分析ゼミ」「問題解決ゼミ」でさらに学習を深めていくための準備段階と私は位置づけています。もちろん強調しておかなければなりません、このゼミを履修したからと言って、3年生の本ゼミで私のゼミを選ぶ義務はまったくありません。履修した後に、興味が変わったり、ゼミの内容が思ったのとは違ったり、不満を感じることもありうるでしょう。しかし「ちょっと面白そうだから」「メルヘンってかっこよさそうだから」「ディズニー・プリンセスが好きだから」などという極めて表面的な理由で(実際、このゼミはこの数年間そうした学生で満杯の状態です)、最初から2年生の前期限定で、「雑学」を身に着けることが日当で受講しようとしている学生はどうかご遠慮下さい。メルヘンのことは「外国文学」や「比較文化・比較文学」でも扱っておりますので、そちらを聴講して下さい。 大学での専門的な学問に入る前に、なるべく親しみやすいテーマを選び、多くの人に門戸を広げることは重要で、そうした意味からこのゼミでも「メルヘン」を扱っています。しかし私が皆さんに本当に伝えたいのは、そうした背後にある本物の文学の豊かな世界と奥深さであり、文学はこの複雑で理解不可能な現代の情報社会を生き抜くためにもきわめて有効な手段なのです。ところが、本当に伝えたい深い内容に移行する前に、その前座にある仮の像をほんの少ししかるだけで、ほとんどの学生が目前から去ってしまうのは誠に残念な話ではありませんか！ こうしたことをご理解の上、履修するかどうかを決めてください。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 授業開始までにグリム童話の文庫本を1冊以上購入し、10以上の話を読んでおくこと。最初の授業で聞きますよ。		
5. 教科書 随時プリントを配布し、パワーポイント資料を提示します。		
6. 参考書 各自、グリム童話を文庫で購入して、読んでおくこと。訳は特に指定しません。参考書は授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜指示します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%(出席+発言+グループ発表) 学期末のレポート(またはプレゼン)50%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	大黒 岳彦
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイーロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキーワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起きました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。		
本ゼミナールでは、このような新しいメディアテクノロジーの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 第一回 自己紹介 第二回 ガイダンス 第三回 情報社会とは何か (1) 第四回 情報社会とは何か (2) 第五回 検索 (Google) とは何か (1) 第六回 検索 (Google) とは何か (2) 第七回 SNSとは何か (1) 第八回 SNSとは何か (2) 第九回 ビッグデータとは何か (1) 第十回 ビッグデータとは何か (2) 第十一回 AIとロボット (1) 第十二回 AIとロボット (2) 第十三回 AIとロボット (3) 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 基本的には講義ですが、適宜討論や課題を織り交ぜます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各自がそれぞれのアンテナを張り巡らして、最新テクノロジーの動向に敏感であってください。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 購入を義務付けることはしませんが、講義の内容が書籍になっているので繕読をお勧めします。 大黒岳彦『〈情報的世界観〉の哲学——量子コンピュータ・メタヴァース・生成AI』（青土社） 大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉——グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房） 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポスト・トゥルース』（青土社） 大黒岳彦『「情報社会」とは何か？——〈メディア〉論への前哨』（NTT出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 出席および授業中のパフォーマンス100%。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	竹中 克久
1. 授業の概要・到達目標 私たちは多様な価値観に基づく社会に生きています。そこでは、「常識」と呼ばれるものが存在していますが、その根拠についてはあまり詳しく論じられることはありません。私たちは、恋愛や家族といった身近な社会から、階層や国家という大きな社会まで、ふだんの生活を送るなかで「当たり前」となったモノの見方にとらわれていることが少なくありません。しかし、物事を常識的に考えるだけでは、社会で起こっている様々な問題——モンスターペアレント、格差問題、環境問題など——を解決することは不可能なことはもちろん、何が問題になっているのかを考えることすらできません。常識を疑い、自分なりの論理で説明し直すためには、まず自分なりの「モノの見方」を身につけることが重要です。本ゼミナールでは、主として常識にとらわれない見方の一つとして社会的な「モノの見方」を学びます。ゼミナールでは、教科書に沿って、ディスカッションを行っていきます。また、その際、各章の担当者はグループ・ディスカッションを行うテーマを設定することが求められます。3年次以降の卒業論文作成のためのテーマを見つけることを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション——社会学とは何か 第2回 社会学とはどういう学問か—個人と社会 第3回 日常生活と社会—相互行為の社会学 第4回 社会の時間と個人の時間—時間の社会学 第5回 ファッションがつなぐ社会と私—身体の社会学 第6回 現代的な生きづらさ—マイノリティの社会学 第7回 性／性別の「あたりまえ」を問い直す—ジェンダーとセクシュアリティの社会学 第8回 社会のなかの医療—健康と病の社会学 第9回 マンガが生み出す読者たちの共同体—メディア受容の社会学 第10回 観光現象から考える「社会」と「私たち」のすがた—観光の社会学 第11回 日常の中の非日常—消費の社会学 第12回 秩序が束縛か—組織の社会学 第13回 現代社会の諸問題Ⅰ 第14回 現代社会の諸問題Ⅱ ※シラバスは変更になることもある。		
3. 履修上の注意 事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必ず事前に教科書を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。 ※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。		
5. 教科書 『社会学（3STEPシリーズ）』油井清光、白鳥義彦、梅村麦生 編、(昭和堂) ※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。		
6. 参考書 特に使用する予定はない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のディスカッションにおいてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%		
9. その他 物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎する。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	田中 洋美
1. 授業の概要・到達目標 ジェンダーやポピュラーカルチャーについて学術的に研究することに関心のある情報コミュニケーション学部2年生を対象とする文献講読の演習です。ジェンダー、インターセクショナルリティ（ジェンダーとその他の差異の交差性）の視点からポピュラーカルチャー、それと関わるメディア、ファンダム等について分析するための理論や方法を学びます。 ジェンダー・階級・人種などの社会的差異は、ポピュラーカルチャーやそれに関わるメディア、経済・産業、組織・集団、個人の意識・アイデンティティ、欲望等と関係しています。様々な現象があり、研究内容も多様化していますが、本演習では、文化やメディア、テクノロジーのグローバル化が進み、様々な文化的産物が国境横断的に生産・消費されている現状を踏まえ、日本に暮らす私たちにとって、近年最も知られたトランスナショナルなポピュラーカルチャー現象の一つであるK-Pop、特にBTSを取り上げます。BTSに関する文献の講読とディスカッションを通じて、一文化現象としての特徴や背景を知るとともに、学術的にどのように考察されており、またその学術研究にはどのような意義があるのかについて理解を深めます。ポピュラーカルチャーとジェンダーについて学術的に考える基本的な視点や方法を身につけることが、本演習の目標です。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクション（1）：ポピュラーカルチャーの研究とは？ 第3回 イントロダクション（2）：韓流の系譜 第4回 K-PopとBTS（1） 第5回 K-PopとBTS（2） 第6回 メディア形態から考える 第7回 ファンダムから考える 第8回 人種から考える 第9回 ジェンダーから考える 第10回 ワーク：他の文献・資料との比較検討（1） 第11回 ワーク：他の文献・資料との比較検討（2） 第12回 研究発表 ＊履修人数により発表を2回に分けて行う可能性あり。 第13回 まとめの議論、レポート提出		
3. 履修上の注意 ・K-PopやBTSに関する予備知識は不要ですが、ポピュラーカルチャーやジェンダーに対する関心・問題意識を持っていること。 ・授業時間外での取り組みがあります。学習意欲のある人のみ履修してください。 ・最終回を除いた計12回のうち、病欠等合理的理由による欠席は2回まで可、特段の理由や相談がない場合、無断欠席2回で以後の出席・単位修得不可となります。特段の理由のない大幅な遅刻は減点対象、50分以上の遅刻は欠席扱いです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業での議論や発表のための準備（例えば、文献を予め読んでおくこと、プレゼンの資料の用意・予行練習など）が必須です。その他にも課題があれば、取り組んでおいてください。		
5. 教科書 ホン・ソクキョン（2021）『BTSオン・ザ・ロード』 玄光社 その他、授業で指示します。		
6. 参考書 イ・ジヘン（2021）『BTSとARMY：私たちは連帯する』 イースト・プレス 毛利嘉孝（2004）『日式韓流：冬のソナタと日韓大衆文化の現在』 せりか書房 ニューズウィーク日本版編集部（2022）『ニューズウィーク日本版』（4.12号 特集：BTSが愛される理由） その他、授業で指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭（面談）またはメール等、文章で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度、課題への取り組み）50％ 最終レポート50％ 評価の対象となるには、80％以上の出席が必要です。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	田村 理
1. 授業の概要・到達目標 機動捜査隊の活躍と葛藤を描いた綾野剛・星野源主演ドラマ『MIU404』は、高視聴率をとるとともに多くの賞を受賞しました。 このドラマで注目すべきは、犯人逮捕のために法を侵すことも辞さない刑事が大活躍する刑事ものどちがって、星野演じる志摩刑事や麻生久美子演じる桔梗隊長が「警察は権力をもっている」が故に法律に従わなければならないし、信頼を失ってはならないと繰り返す、事件解決のためにやるべきことと課される制約の間で「葛藤」するところです。 日本国憲法も、主権者国民の代表が定める法律を政治と行政の基本にすえながら、国民の多数意思である法律も人権の保障のために裁判所の違憲審査で否定する仕組みをおいています。行政は国と国民の利益となる政策の実現のために広い権限を与えられているが、すべて国会が定める法律にしたがうという制限を課されています（法治主義）。特に治安維持のための刑事手続に関わる警察は適法手続主義（31条以下）に基づく多くの規制を課されています。強い権力の行使とそれへの規制、相反する要請に同時にこたえるための「葛藤」が必ず生まれます。犯人逮捕のためなら警察は何をしてもいいなら、憲法は不要です。 では、日本の警察・行政の実際はどうか。私達国民の意識はどうでしょうか。「葛藤」がなければどんな問題をかかえるのか、適切な「葛藤」を維持するには何が必要か、なるべく多くドラマをみながら考えます。 マルカバツか白か黒かで線引きせず、相反する要請の間で「葛藤」することが社会と国家にとって重要であることを理解することを授業の到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回：ゼミの目的と方法：ガイダンス 第2回：「葛藤」しない公権力の現状・概観 第3回：日本国憲法の「世界観」 第4回：警察の権限強化とグレーゾーン① 第5回：警察の権限強化とグレーゾーン② 第6回：警察の権限強化とグレーゾーン③ 第7回：警察官は憲法と法律を知っているか？① 第8回：警察官は憲法・法律を知っているか？② 第9回：警察組織のあり方 第10回：隠れ冤罪・誤認逮捕・違法逮捕と泣き寝入り① 第11回：隠れ冤罪・義認逮捕・違法逮捕と泣き寝入り② 第12回：マスコミと市民によるチェックは？① 第13回：マスコミと市民によるチェックは？② 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 出席して、言われたことをやっているだけの参加者には単位を出しません。ゼミ時間外にも時間を割いて、自分がこれまで蓄えてきたものとはちがう新しい知識と価値観を学び、それを使って行う新しい思考と主張の方法を身につけるために積極的に取り組む意思をもって受講してください。 ＊このゼミは秋学期に同時開講される「問題発見テーマ演習B」（ドラマ『エルピス』で考える報道の自由の必要性：「憲法のいらぬ国」の現在と未来②）と継続性を持たせてあるので、セットでの受講を一考してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習 第3回授業終了時までに教科書を一通り読んでおいてください。 全体の理解を前提として、第4回以降は毎回とりあげる特に重要な箇所を指定します。 それぞれ、簡単なまとめのメモを文章で提出してもらい、全員で共有します。それをもとに授業時間中に全員で議論します。 ○復習 授業中の議論で解決できなかった問題については持ち帰って調べ、文章で報告をしても構いません。		
5. 教科書 原田宏二『警察捜査の正体』（講談社新書・2016年）		
6. 参考書 必要に応じてその都度指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することにします。 授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。		
8. 成績評価の方法 以下の配点で成績評価をします。 ゼミ中の発言・質疑・応答：50点 ゼミ中の提出物：50点 ＊正当な理由を事前に知らせないままの遅刻・欠席は減点します。 また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	ドウ, ティモシー J
1. 授業の概要・到達目標 多くの英語学習者は教科書または教室の教材の英語と英語圏のポップカルチャー（ポップミュージック・テレビ番組・映画）と非常に違うことを気づきます。語学の研究によると文語英語と口語英語は大きく違う文法と語彙から作られています。多くの英語のクラスには上記の差が直接取り上げていないため、英語でコミュニケーションをするとき、様々な問題が起きてしまいます。 このゼミナールの到達目標は次のとおりです。(1) スピーキングの能力を高めるため、英会話の構造特性を学びます。(2) 聴解力を高めるため、日常会話の発音要素を学びます。(3) 英語のコミュニケーション、特に適切さの知識、を高めるため、英語圏のポップカルチャーの作品（ポップミュージック・テレビ番組・映画）の分析する方法を学びます。 Contact details: timdoe@meiji.ac.jp		
2. 授業内容 第1回 Spoken vs. Written Language 第2回 Planned vs. Unplanned Speech 第3回 Word Stress and Reduced Vowels 第4回 Rhythm, Stress and Intonation in English Speech 第5回 Connected Speech 第6回 Interactional Competence 第7回 Interaction in Conversation 第8回 Turn-Taking: Introduction, Test 1 第9回 Turn-taking: Changing Speakers and Topics 第10回 Politeness and Speaking 第11回 Describing Spoken Interactions in a Report 第12回 Cooperation and Speaking 第13回 Active Listening, Test 2 第14回 Language Learning Motivation for Speaking		
3. 履修上の注意 このゼミナールは CLILアプローチ（内容言語統合型学習）を使います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テーマに基づいた課題を完成させること。グループワークの準備が必要なこともあります。		
5. 教科書 英語の雑誌の記事などを読みやすくする準備し、コピーを配布します。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のとき、宿題の正答とテストの解説と講評を行う。		
8. 成績評価の方法 グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、テスト（50%）。		
9. その他 このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	内藤 まりこ
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 小説や映画、演劇、漫画やアニメ、絵画等、私達の周囲にはさまざまな表象作品が生み出され、流通しています。本ゼミナールでは、そうした作品を学術的に捉える手法を学習します。具体的には、「批評理論」と呼ばれる、表象作品を読み解くための理論のいくつかを学び、それらを用いて作品を分析します。 また、本ゼミナールでは、論述文の書き方も合わせて学習する。大学生活において論述文を書く機会としてすぐに思いつくのは、レポートや卒業論文の執筆でしょう。しかし、論述文を書くのは大学時代だけではありません。社会に出てからも、私たちは論述文を書き続けることになるのです。なぜなら、私たちは日々自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々に出会っており、論述文とは、そうした人々に自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるための文章の形だからです。そこで、本ゼミナールでは、レポートを実践例とし、どのように自分の思考を組み立て、文章にすればよいのかを学びます。 【授業の到達目標】 授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 第2回：批評理論の学習1：批評理論とは何か 第3回：批評理論の学習2：ウラジーミル・プロップ「物語の31の機能」 第4回：論述文の書き方の学習1：論述文とは何か 第5回：批評理論の学習3：ジェラルド・ジュネット「語りの構造」 第6回：レポート構想発表 第7回：論述文の書き方の学習2：論文の構成要素 第8回：批評理論の学習4：ジャック・デリダ「脱構築」 第9回：論述文の書き方の学習3：アウトラインの作成 第10回：批評理論の学習5：ジュディス・バトラー「ジェンダー・クイア批評」 第11回：論述文の書き方の学習3：パラグラフ・ライティングの学習 第12回：論述文の書き方の学習4：引用方法の学習 第13回：論述文の書き方の学習5：わかりやすい文章の書き方の学習 第14回：研究成果発表会		
3. 履修上の注意 ・ほぼ毎回課題の提出を求める。課題は成績評価の対象となる。 ・グループに分かれて課題に取り組む場合がある。 ・欠席した場合は、次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ほぼ毎週、宿題が課される。宿題の内容は、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解等である。		
5. 教科書 ・指定しない。 ・毎週、授業プリントを配布する。		
6. 参考書 ・遠藤英樹『現代文化論—社会理論で読み解くポップカルチャー』（ミネルヴァ書房、2011年） ・テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年） ・大橋洋一『新文学入門—T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』（岩波セミナーブックス、1995年） ・筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、2000年） ・橋本陽介『ナラトロジー入門—プロップからジュネットまでの物語論』（水声社、2014年） ・石原千秋・小森陽一他『読むための理論』（世織書房、1998年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、メール、個別面談		
8. 成績評価の方法 ・授業内課題 20% ・授業内発表 30% ・学期末レポート50%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	中里 裕美
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、近年、地域社会で生じる諸問題を解決する担い手として期待される非営利組織、いわゆる「NPO」をテーマとします。受講生には、NPOの定義や規模、法・税制度などNPOを巡る現状にかんする基礎知識を習得してもらい、そのうえでその事業運営の実態や課題を探るとともに、その発展の方向性について考察してもらおうことをねらいとします。 本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。 まず、テキストを輪読し、NPOの定義とそれが注目されるようになった経緯などNPOの基礎的な事柄について学びます。またその過程で、具体的なNPOの事例を随時紹介するので、それらを参考にしながら各自が関心のある／研究してみたい分野のNPO（福祉、環境、教育、まちづくり、文化・スポーツなど）を決めてもらいます。そして、NPOのマネジメントにかんする知識を深めてもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、当該分野のNPOの実態や課題、その発展の方向性について、文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を通して検討し、授業内にてその報告と議論を行います。また、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。		
2. 授業内容 第1回 インタロダクション（文献担当決め等） 第2回 NPOとは何か（テキスト第1章） 第3回 非営利組織の活動から（テキスト第2章） 第4回 社会の中のNPO（テキスト第3章） 第5回 NPOのマネジメント・過去から未来へ（テキスト第4・5章） 第6回 調査NPOの分野決め、調査計画の立て方、論文検索のしかた 第7回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（1） 第8回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（2） 第9回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（3） 第10回 中間報告会 第11回 調査データの分析とまとめ（1） 第12回 調査データの分析とまとめ（2） 第13回 成果報告会（1） 第14回 成果報告会（2） 履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書 『テキストブックNPO：非営利組織の制度・活動・マネジメント [第3版]』、雨森孝悦著（東洋経済新報社）2020年 『はじめてのNPO論：一緒に役割を考えよう』、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子著(有斐閣) 2017年 ※初回の授業で、教科書の購入のし方について説明します。		
6. 参考書 『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』大谷信介・木下栄二・後藤範章他編著（ミネルヴァ書房）2013年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、最終レポート50%		
9. その他 本ゼミナールでは、受講生にグループ単位でNPOにかんする文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を行ってもらう予定です。そのため、他の受講生と協働しつつ社会調査に積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。このようなゼミでの活動を通して、NPOに関する知識の習得はもちろんのこと、社会調査の手法、コミュニケーション能力、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションスキルの向上を目指しましょう。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	中臺 希実
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代のTVドラマや映画、小説などと同様に、江戸時代には娯楽として人々に受容された浄瑠璃・歌舞伎などのメディアがあります。これらの江戸時代のメディアには、人々の生活を題材として当該期の世相を反映し、人々にジェンダー観などの意識を再生産する働きもありました。これらの近世メディアを歴史史料として利用するとどんな歴史像が描けるのか、利用する際の注意点などを学びながら、批判的に史料（浄瑠璃や歌舞伎）を読み、必要な資料やデータ、論文などを収集する方法、さらには自身の考えを正確に説明する技術、ディスカッションの習得を目指します。 【授業の到達目標】 ・正確に文献を読み、必要な参考文献を収集する力の習得 ・自分の意見を論理的に他者に伝えることが出来る ・他者の報告に対し、建設的な意見を述べる事が可能となる。		
2. 授業内容 第1回：インタロダクション<春学期> 第2回：レジュメ・レポートの作成方法について① 第3回：歴史と歴史学の違いを考える 第4回：権力と娯楽の緊張関係―規制と教諭、反発と迎合― 第5回：報告・ディスカッション① 第6回：報告・ディスカッション② 第7回：史料を読む①江戸時代のメディアにおいて称賛された男性像 第8回：史料を読む②江戸時代のメディアにおいて称賛された女性像 第9回：報告・ディスカッション③ 第10回：報告・ディスカッション④ 第11回：史料を読む③江戸時代のメディアから考える「家」と親子・夫婦問題 第12回：史料を読む④江戸時代のメディアから考える「家」と親子・夫婦問題 第13回：報告・ディスカッション⑤ 第14回：報告・ディスカッション⑥ ＊授業内容に関しては、変更する可能性があります		
3. 履修上の注意 考えること、議論することに対し、真摯な態度で講義に望んでください。 自身の報告回だけでなく、他者の報告に対しても積極的に自分の意見や疑問を投げかけてください。 無断欠席はしないこと。自身の報告回に、無断欠席した場合は不可となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当番制でレジュメを作成し、報告してもらいます。 担当となった人は、報告テーマに関して、事前に十分な準備をしてください。 また、自分以外の人が担当する報告についても、提示された参考文献などに目を通すようにしてください。 報告は必須です。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』編総合女性史学会（岩波書店） 『論点・日本史学』編岩城卓二他（ミネルヴァ書店） 『深化する歴史学―史料からよみとく新たな歴史像編歴史科学協議会（大月書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミ内にて、解説を行う。		
8. 成績評価の方法 出席、ゼミ報告での発表50%、報告レジュメ50%		
9. その他 歴史学を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	日置 貴之
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 吉原遊廓は元和3年(1617)に江戸幕府によって設置を許可され、明暦3年(1657)に現在の日本橋人形町付近から浅草寺裏に移転、明治維新後も同地で営業を続け、昭和32年(1957)の売春防止法施行まで340年にわたって存続した日本最大の遊廓であった。そこは江戸時代には単なる性売りの場であるのみならず、文芸や芸能、絵画に多大な影響を与えた文化の発信地の側面を持ち、また売春防止法施行後も含む近現代においても多くの文学作品や映画、漫画・アニメ等で描かれ続けている。そうした文化的側面の重要性和同時に、吉原のイメージが「誰の視点から描かれてきたのか」、そこで「描かれてこなかった」ものは何なのか、といった視点も今日では求められるであろう。 この演習では、吉原を描いた近世の文芸作品や演劇・芸能、浮世絵等、樋口一葉の小説をはじめとする近代の文学作品や、現代の映画、漫画・アニメ等、またこれまでになされてきた吉原に関する諸研究を取り上げ、吉原遊廓について文化的観点から考察する。 【到達目標】 過去の文化現象や芸術作品および芸術・文化と社会との関係について、文献等の資料に基づいて調査をおこない、自身の考えを持つことができる。また、その考えを適切な方法で他者に伝えることができる。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 文献講読(1)～吉原遊廓の歴史について(1) 第3回 文献講読(2)～吉原遊廓の歴史について(2) 第4回 文献講読(3)～ジェンダー史と遊廓 第5回 文献講読(4)～近世の身分制度と遊廓 第6回 洒落本と吉原 第7回 浮世絵と吉原 第8回 歌舞伎と吉原(1) 第9回 歌舞伎と吉原(2) 第10回 落語の廓断と吉原(1) 第11回 落語の廓断と吉原(2) 第12回 近代文学と吉原 第13回 映画に描かれた吉原 第14回 漫画・アニメに描かれた吉原		
3. 履修上の注意 4月27日(土)に東京藝術大学美術館で開催される「大吉原展 江戸アメイジング」(2024年3月26日～5月19日)および吉原遊廓跡地の見学をおこなう(観覧会入場料は学部による補助を受ける予定)。やむを得ない事情により参加できない場合も授業の履修に差し支えはないが、基本的には参加を求める。欠席の場合は別途個人で観覧会見学をおこなうこと。 授業時間以外に、文学作品や映像の鑑賞、報告準備など、かなりの時間の予習をおこなうことを求める。単に教室にいただけでは成績評価の対象とはならないので、事前準備をおこなった上で、能動的に授業に臨むこと。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 各回の授業前に、授業で扱う文献や作品を読み(場合によっては映像等の鑑賞をおこなう)、疑問点等を明らかにしておくこと。また、報告担当者は関連作品や先行研究についての調査をおこない、配布資料を作成すること。 授業後は各自で授業内容の整理・確認をおこない、疑問点や授業中に議論しきれなかった点についてはクラスウェブ上で質問や他の受講者との議論をおこなうこと。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 江戸吉原叢刊行会編『江戸吉原叢刊』全7巻、八木書店、2010～12年 国立歴史民俗博物館監修『新書版 性差(ジェンダー)の日本史』集英社インターナショナル、2021年 高木まどか『近世の遊廓と客—遊女評判記にみる作法と慣習—』吉川弘文館、2020年 横山百合子『江戸東京の明治維新』岩波書店、2018年 渡辺憲司監修『吉原の落語』青春出版社、2011年 ほか適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回授業についての質問・コメントをクラスウェブから提出してもらおう。次回以降の授業内およびクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。		
8. 成績評価の方法 発表内容50%、ディスカッションにおける発言等、授業への参加度50%。発表は適切に資料を用いて、作品について調査し、考察できているか、またその内容をわかりやすく発表できているかによって判断する。		
9. その他 心身の条件等により、受講に際して特別な配慮が必要となる場合は、履修を検討している際にも、また履修登録後にも、hioki@meiji.ac.jpへ相談してください。授業資料や板書等について、文字の大きさや字体、色などに配慮することなどが可能です。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	蛭川 立
1. 授業の概要・到達目標 問題発見テーマ演習Aでは、人類学と意識科学の基礎を学ぶ。拙著『彼岸の時間—〈意識〉の人類学—』を輪読しながらディスカッションを行う。具体的な内容については「授業内容」に各章の題名を列挙しているので、参照のこと。 二十年前に書かれた本なので、内容が古いところもあるが、研究の進展によって改められるべき部分については補いながら進めたい。		
2. 授業内容 第1回：全体の展望 第2回：「他界への旅：アマゾンのシャーマニズムと臨死体験」 第3回：「象徴としての世界：バリ島民の儀礼と世界観」 第4回：「穢れた女の聖なる力：インド世界とタントリズムの思考」 第5回：「巫女という対抗文化：沖縄の民間信仰をめぐる権力構造」 第6回：「ルサンチマンと権力：タイの仏教とシャーマニズム」 第7回：「〈自我〉という虚構：インド・チベットの瞑想哲学」 第8回：「転生するのは誰か：『靈魂の死後存続』をめぐる論争」 第9回：「非局所的な宇宙：旧ソ連圏における認識論的政治学」 第10回：「理性と逸脱：マイクロネシアのドラッグカルチャー」 第11回：「聖なる狂気：沖縄シャーマンの巫病は『精神病』か？」 第12回：「原始の復権：色好み日本人とネオ・シャーマニズム」 第13回：「労働・貨幣・欲望：グローバル化する資本主義と〈南〉の社会」 第14回：「帰郷でも超越でもなく：アマゾンの未来の可能性・日本的未来の可能性」		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 教科書に書かれていることだけでなく、随時、関連する知識を学ぶことが望ましい。		
5. 教科書 蛭川立(2002)、『彼岸の時間—〈意識〉の人類学—』春秋社。(新装版は2009年)		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。		
8. 成績評価の方法 演習に出席して発表しディスカッションを行うこと(100%)		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	堀口 悦子
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>【授業の概要】本ゼミナールでは、4 学年を通じて共通の目標を立てている。それが、「日本のエンタメにジェンダー視点を！」である。エンタメの現場には、「セクハラ」などの性暴力が起りやすい環境がある。まずは「セクハラ」を知ることである。世界的に日本だけは、「#Me Too」運動があまり盛り上がりなかった。しかし、2022年3月から、芸能界でのセクハラが日本でも明らかにされるようになった。『その名を暴け』という本を教科書に、調査報道から「セクハラ」問題を考えてみよう。</p> <p>【到達目標】到達目標は、テキストを読むことで、リーガル・リテラシー（法識字）を身に付けることであり、ジェンダーを含めた、多様な考え方を知ることである。また、実践として、調査や外部でのワークショップなどを行い、積極的にプレゼンテーションができるようにすることである。随時、感想文など、書く力をつける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。</p> <p>【合宿】夏休みに、埼玉県の国立女性教育会館（東武東上線武蔵嵐山駅下車）で、2泊3日で合宿を行う。この合宿は、国立女性教育会館のフォーラムに参加するためである。ゼミ生参加のワークショップも行う。宿泊費は、1泊1,200円（食費別）、1日目の夜の懇親会費4,000円、その他交通費である。費用は予定である。合宿は、必修であり、夏休み中の短期留学などのやむを得ない事情がある場合以外は、必ず参加すること。ただし、合宿は新型コロナの影響で変更があり得る。</p> <p>【外部活動】オンライン等で、随時参加予定である。</p> <p>以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。国立女性教育会館は、国の施設であり、アーカイブなど、ジェンダー研究に必要な資料がそろっているため、ぜひ、活用してほしい。東京ウイメンズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているため、こちらもぜひ、活用してほしい。</p> <p>*全体的に、新型コロナの状況により変更がある。</p> <p>【要望】学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的に、やる気がある学生を求めている。積極的になくても、やる気がなくても、本ゼミに入れば、心持ちに変化が生じることを願う。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『その名を暴け』の報告と討論(1)</p> <p>第3回 『その名を暴け』の報告と討論(2)</p> <p>第4回 『その名を暴け』の報告と討論(3)</p> <p>第5回 『その名を暴け』の報告と討論(4)</p> <p>第6回 『その名を暴け』の報告と討論(5)</p> <p>第7回 『その名を暴け』の報告と討論(6)</p> <p>第8回 『その名を暴け』の報告と討論(7)</p> <p>第9回 『その名を暴け』の方向と討論(8)</p> <p>第10回 『その名を暴け』の報告と討論(9)</p> <p>第11回 夏合宿等の事前学習(1)</p> <p>第12回 夏合宿等の事前学習(2)</p> <p>第13回 夏合宿等の事前学習(3)</p> <p>第14回 夏合宿等の事前学習(2)</p> <p>『その名を暴け』を原作にした映画を鑑賞する予定である。予定は、変更する可能性もある。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに関心を持つよう。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>太宰治『人間失格』を読んでおいてください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>『その名を暴け #Me Tooに火をつけたジャーナリストたちの闘い』ジョディ・カンター、ミーガン・トゥーイー、古屋美登里訳、新潮社 この書籍が映画化された「シーセッド その名を暴け」も観てほしいので、ゼミの時間内に鑑賞予定。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>『私たちは言葉が必要だーフェミニストは黙らない』イ・ミンギョン タバ・ブックス</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>できるだけ毎回のゼミで、課題へのフィードバックを行う。最終回のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>毎回のゼミへの参加姿勢30%、課外活動等への参加50%、提出物20%</p>		
<p>9. その他</p> <p>小説を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に見に行ったり、してほしい。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	宮川 渉
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>今日私たちの世界には様々な音楽表現が存在しますが、私たちが実際に触れている音楽はその一部に過ぎないのかもしれませんが。現代音楽はこれらの様々な音楽表現の中でも特に新たな表現方法を模索し続けてきた音楽と言えるでしょう。このゼミナールでは、現代音楽などの様々な表現方法に触れることを目的とします。基本的にこちらが紹介する音楽表現をグループで実践するという形を取ります。まずは一般的な音楽理論を取り上げ、その後はミニマルミュージックなどの現代音楽の表現方法を紹介していきます。</p> <p>このゼミナールを通じて、一般的に持たれている音楽の固定観念を壊し、より自由に「音」を「楽しむ」場を構築することを目指します。それは各受講生の創造性を高めることに繋がると信じています。また、グループで協力して作品を完成させる経験を通じてコミュニケーション力をつけることもこのゼミナールの目標となります。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 aのみ：イントロダクション</p> <p>第2回 音楽制作関連のソフト</p> <p>第3回 音楽理論(1)</p> <p>第4回 音楽理論(2)</p> <p>第5回 音楽理論(3)</p> <p>第6回 グループ創作(1)</p> <p>第7回 ミニマルミュージック</p> <p>第8回 グループ創作(2)</p> <p>第9回 環境音を用いた音楽</p> <p>第10回 グループ創作(3)</p> <p>第11回 映像と音楽</p> <p>第12回 グループ創作(4)</p> <p>第13回 即興演奏</p> <p>第14回 グループ創作(5)</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>授業内容は変更することがあります。特に演奏などを交えた授業を行いたいと思っておりますが、こちらで準備できる楽器が限られています（電子ピアノ数台、ギター、ベース、カホン、電子ドラム）。そのため受講者が持って来られる楽器などによっても授業内容が変わる可能性があります。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>創作作業は授業時間だけでは不十分なので、授業時間外にも取り組む意欲と時間が必要です。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>特にありません。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>必要に応じて参考文献を紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>課題へのフィードバックは基本的に授業内で行うが、必要に応じて授業時間外にもOh-olMeijiなどを活用して行います。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>授業内での取り組み30%、成果物（プレゼン、制作物）70%</p>		
<p>9. その他</p> <p>音楽経験者、未経験者に関係なく、いろいろなものに好奇心があり、やる気のある積極的な人を歓迎します。音楽理論などを説明する上では楽譜を使用することがあります。履修上の注意にも記しましたが、こちらで準備できる楽器が限られているため、可能な限り楽器を持って来てもらえるとありがたいです。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	山口 生史
1. 授業の概要・到達目標 組織および組織メンバーの生産性の向上のためには、適切な情報の流れ (information flow) やメンバー間の良好な対人コミュニケーション (組織内のコミュニケーションの健全性) が不可欠です。この生産性には、業績、業務効率、エラーの減少、組織メンバーの肯定的な組織行動、組織メンバーの有能性、などが含まれます。組織コミュニケーションの健康状態を診断する研究をコミュニケーション・オーディット (Communication Audit) 研究といいます。また、コミュニケーション・オーディット研究は、組織コミュニケーションがメンバーの組織行動や態度にいかに関与するかを探るために行われてきました。したがって、このゼミの目標は、コミュニケーション・オーディットによって何がわかるかとその方法を学ぶことです。コミュニケーション・オーディットの調査方法には様々あり、インタビューなどの質的調査と質問票により得たデータを統計解析する量的調査がありますが、このゼミでは、コミュニケーション・オーディットの質的調査について学びます。質的調査のうち、インタビュー調査をチームで行う予定です。それを体験することも、この授業の目的の一つです。14回の授業のうち、前半は配布資料と教科書を読み、このテーマについて理解を深めます。各回の担当者が、指定の資料や章を読んできてプレゼンテーションを行います (サマリーペーパーの提出は全員です)。後半は、グループワークでインタビュー調査の準備と実施をします。具体的には、インタビューガイドの作成、身近な組織の複数のメンバーへの (スノーボールサンプリング) インタビュー調査の実施、インタビューで得たデータの分析を行います。そして、分析結果に基づき、組織のコミュニケーション状態を診断して、チーム発表をしてもらう予定です。最後に、各自 (チームでなく個別) が、それらをペーパー (論文) にまとめて提出する必要があります。		
2. 授業内容 第1回 (a) クラスの概要説明; (b) 組織コミュニケーションとは 第2回 (1) 組織コミュニケーションとは; コミュニケーション・オーディットとは (2) コミュニケーション・オーディットによってわかること (1) 第3回 コミュニケーション・オーディットによってわかること (2) 第4回 コミュニケーション・オーディットにおけるインタビュー調査 第5回 コミュニケーション・オーディットにおけるクリティカルインシデント法 第6回 インタビュー調査の方法と準備 第7回 インタビューガイドの作り方 第8回 インタビューガイドの作成 第9回 データ分析1 (分析方法の解説) 第10回 データ分析2 (コーディング作業1) 第11回 データ分析3 (コーディングの作業2) 第12回 データ分析4 (コーディングの修正) 第13回 データ分析5 (概念間の関係を分析) 第14回 発表 (質疑応答とコメント) * 諸般の事情により変更の可能性はあります。		
3. 履修上の注意 課題などの提出は期限を厳守して下さい。調査はチームで行いますが、ファイナルペーパーは個人で書きます。調査に関しては積極的参加とチームワークが必須です。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 調査前は配布資料のリーディングのサマリー提出 (課題) が必要です。調査の実施においては、調査準備、データ収集、データの分析をしてきてください。		
5. 教科書 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ ―研究計画から論文作成まで』太田裕子、東京図書、2019		
6. 参考書 クラスにて適宜紹介		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題に対しては、コメントあるいは解説を返すことによりフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 出席が十分であれば以下の通りに評価します。 ファイナルペーパー 45%; 課題提出 45%; プレゼンテーション 10%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	脇本 竜太郎
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この演習の目標は、社会心理学の研究法を学ぶことである。特に、調査と、データに基づいて対象を統計的に分類する方法に焦点を当てて。データに基づいた対象の分類は、学術研究だけでなくマーケティングにおいてもよく用いられる手法である。社会心理学の研究法の基礎を学んだうえで調査を企画・実施し、得られたデータをオープンソースの統計解析・開発環境であるRを用いて分析する。		
【到達目標】 ①社会心理学研究法の基礎を身に着ける。 ②基礎的な調査の手法を理解できる。 ③クラスター分析の手法を理解できる。 ④Rによって基礎的な分析を行うことができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 実証研究の論理 第3回 問題の設定と仮説の構成 第4回 目的に応じた研究法の選択 第5回 測定的基础 第6回 尺度構成 第7回 改訂する尺度の選択、ディスカッション 第8回 項目作成 第9回 質問紙作成 第10回 Rによる分析講習 (データハンドリング) 第11回 Rによる分析講習 (クラスター分析、検定) 第12回 データ分析実習 第13回 発表スライド作成 第14回 研究結果発表、春学期総括		
3. 履修上の注意 ・授業後半は受講者自身が調査を企画するため、特に積極的な参加が求められる。 ・脇本が担当する問題発見テーマ演習AとBは別々の授業ではあるが、大枠は共通している。問題発見テーマ演習は様々な学問分野に触れる機会なので、脇本のテーマ演習AとBを同時に履修することは勧めない。 ・ファイルを任意の場所にダウンロードできる、添付ファイルをメールで送ることができる、ワードやエクセルを普通に使うことができるといった程度の初歩的コンピューターリテラシーを前提として授業を進める。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 レクチャーの際には事前に教科書を読んでおくこと。授業時間外でもグループでの話し合いや作業の時間が必要になる。		
5. 教科書 『社会心理学研究入門 補訂新版』安藤清志・村田光二・沼崎誠 (編) 東京大学出版会		
6. 参考書 授業中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 演習への参加度 (50%)、プレゼンテーション (50%)		
9. その他		

問題発見テーマ演習 A

2 単位

2 年次

和田 悟

1. 授業の概要・到達目標

本ゼミナールでは、学部の国際交流プログラムで関係が深いタイ・ラオスを中心として東南アジアの国々について文献講読を通して学んでいきます。この際、映像資料を使いながら東南アジアの国々様子を知ってもらうとともに、日本の関係について理解を深めてもらいたいと思います。学部の国際交流プログラムでの留学生受入を利用してはタイ・ラオスで日本語を学ぶ学生たちとの交流も取り入れ、東南アジアの事情を身近なこととして感じられるようにしたいと思います。留学生らとの交流を通じて、アジアの社会や文化を知り異文化経験を得ることができます。アセアンは、2015年末に経済共同体が発足し、加盟国間の連携強化など大きく社会状況が変わりつつあります。留学生らと一緒にアセアンの今後や日本との関係について考えてみましょう。また、他国の事情を考えることで、日本の社会についての見方が変わるかも知れません。

到達目標は、東南アジアの社会状況について基本的な理解を深め、今後の日本との関係について具体的に考えられるようになることです。異なる文化や社会を学ぶことで日本の社会について考える新たな視点を手に入れることです。

是非、経済発展の著しい新興国に友達を作りましょう。あわせて、国際交流プログラムの方でも、できるだけ多くのおみなさんが参加してくれることを希望します。

2. 授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 東南アジアと日本の経済発展
- 第3回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読 (1)
- 第4回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読 (2)
- 第5回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読 (3)
- 第6回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読 (4)
- 第7回 課題図書2の文献講読 (1) または、短期留学生との学生交流準備
- 第8回 課題図書2の文献講読 (2) または、短期留学生との学生交流 (1)
- 第9回 課題図書2の文献講読 (3) または、短期留学生との学生交流 (2)
- 第10回 課題図書2の文献講読 (4) または、短期留学生との交流のふり返り
- 第11回 課題図書3の文献講読 (1)
- 第12回 課題図書3の文献講読 (2)
- 第13回 課題図書3の文献講読 (3)
- 第14回 課題図書3の文献講読 (4)・まとめ

3. 履修上の注意

オンラインでの学生交流を実施する場合には、変則的な日程で課外活動が行われることがあります。積極的参加を希望します。課題図書2,3は未定です。第6回までの授業での参加学生の関心や、適時の課題に応じて相談して決めます。

オンラインでの学生交流が実施可能な場合には、第7回~9回にかけて、準備・実施・ふり返りを行います。交流を実施する際は、時差などの都合から、日時を変えて実施することがあります。

なお、「新興国事情」では関連するテーマについて、PCによる実習をしながら学習します。理解を深めるのに役立ちます。あわせて受講すると理解が深まるでしょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの分担を決めて発表をしながら上記の内容を進めてゆきます。予習として指示されたことを、きちんと取り組んでください。

5. 教科書

『新興貿易立国論』大泉啓一郎、中公新書ほかを候補とします。テキストの準備方法などは授業中に説明しますが、学部のゼミへの助成金を最大限活用する予定なので、事前に自分で用意する必要はありません。

6. 参考書

『デジタル化する新興国』伊藤亜聖、中公新書など

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、レポートなどの提出物へコメントは、提出期限後にOh-ol Meijiでフィードバックする。

8. 成績評価の方法

授業時間における発表・発言 50%、小レポートを含む提出課題25%、留学生との交流への取り組み 25%

9. その他

いま社会で求められている「コミュニケーション能力」は同質・同世代の友人の多さで決まるわけではありません。異なる背景や価値観をもつ人々と共に働けることが大切です。学部で用意している国際交流の機会を是非有効に活かしてください。

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	今村 哲也
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 このゼミナールでは、アカデミック・ライティングのスキルをどのように身につけていくのかをテーマにして、演習形式の授業を行います。受講生は、各自が情報コミュニケーション学部で受講している講義科目で学んだことを、このゼミナールでアカデミックな文章として整理することで、学びの程度を深めていきます。ある意味で大学生として学習していく上での「ペースメーカー」的なゼミとして位置付けられます。 本ゼミナールの方針は、以下の三つです。第一は、情報コミュニケーション学部で自ら受講している各種の講義で学んだことを毎週のゼミで文章化していくなかで、大学生として身につけるべき、論理的思考、資料の収集・分析、レポート、グループワークでのプレゼンテーション等の技法について修得すること。第二は、これらの学びを通して、現代社会における情報とコミュニケーションの意義と機能を知り、受講生の問題関心を高めること。第三に、受講生が今後の学習計画を明確にできるように、履修指導、学習の進め方、卒業後の進路選択などについて、アドバイザーとして適宜学生の相談に応じることです。 上記の講義方針のもとに、授業は、担当教員による講義と演習（プレゼンテーション等）を組み合わせて行います。講義では、アカデミックライティングの専門的知識と主要な論点の説明を中心に説明を行います。 アカデミック・ライティングについては、以下の内容について、教室での講義や作業を通して学んでいきます。 ・学術的文章とそれ以外の文章との区別 ・学術的文章を書く上での調査の仕方 ・ノートテイキングの方法 ・フィードバックの仕方、ピアレビューの方法 ・定義の用い方、語彙、分類の手法、比較と対照の方法 ・一般化の方法：学術的文章における「誠実の原則」：ヘッジングとブースティング ・ブレンストーミングとクラスタリングの手法 ・時系列による表現、前後の文章の接続方法 ・図表の読み方と文章における適切な用い方 ・研究の方法論のまとめ方 ・学術的文章における主題の提示と文章における議論の仕方 ・文章全体の構造（調査報告、論文、エッセイその他による相違） ・剽窃（plagiarism）を回避する方法 【到達目標】 アカデミック・ライティングの手法を身につけ、学部の論述試験やレポート課題あるいは卒業論文などにおいて、そうした内容と表現をもつ文章を書けるようになることを目標とする。また、学期末にレポートを提出する。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクションーゼミの進め方など 第2回 自己紹介 第3回 ディスカッション① 第4回 ディスカッション② 第5回 ディスカッション③ 第6回 ディスカッション④ 第7回 ディスカッション⑤ 第8回 グループワークのテーマ設定 第9回 グループワーク① 第10回 グループワーク② 第11回 グループワーク③ 第12回 プレゼンテーション 1 第13回 プレゼンテーション 2 第14回 レポートのピアレビュー		
3. 履修上の注意 ディスカッションやグループワークを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、ゼミの日までに学んだ情コミでの授業に関して、文章でまとめるかたちで準備をするとともに、それらの講義の教科書等を精読しておくこと。 復習としては、授業内で学んだこと及び疑問に思ったことを整理し、各自が受講している授業にも役立てられるようにすること。		
5. 教科書 指定しない（資料配布）。		
6. 参考書 ゼミナール内で指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 メール等で個別に行う。		
8. 成績評価の方法 授業への貢献度 60%、プレゼンテーション 20%、レポート 20% 正当な理由なく4回以上欠席した場合、演習の性質上所定の教育効果が得られないため、単位は与えない。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	岩淵 輝
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 いのちや生き方の諸問題を考える一環として、本年度は「日本の衰退の要因を探りつつ食の安全保障について考える」というテーマでゼミを実施します。ウクライナ戦争が勃発した結果、肥料や小麦の価格が高騰し、世界的な食料危機になる可能性が指摘されています。わが国では従来から食料自給率が低かったにもかかわらず、いかなる事態でも食料をきちんと確保できる体制はつくられて来ませんでした。その背景には、お金を払えば食料をいつでも輸入できるという楽観視があったことが想像されます。けれど、今回のような有事の際には、お金を積んでも食料が手に入らない事態が起こり得ます。有事の際にも食料が確保できるためには、やはり自給率を上げることが重要だと考えられます。では、その気になれば自給率が簡単に上げられるかといえば、そうとは言えません。作物を育てるには農地が必要ですが、わが国では優良な農地が他用途に転用されるなどして、何年も前から減少し続けています。さらに追い討ちをかけるように、多くの国では自国の農地を守るため外国人による土地所有を厳しく規制する法律があるのですが、日本の場合、そうした規制がゆるいため、近年農地がどんどん外国人に売られていると言われていました。また、食品の安全性の問題も重要です。外国ではリスクがあるとみなされている食品が、わが国では普通に輸入され広く流通していることに警鐘を鳴らしている農業問題の専門家があります。みなさんが将来すやかに暮らせるように、日頃から食の安全保障や食品の安全性問題について考えてみられることを望みます。 ゼミの時間は、全員で読む輪読用テキストを決めて発表当番を割り当て、当番の人に発表していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。また、読用テキストとは関係なく、日ごろ自分が抱えている疑問を提示し、それについて他のゼミ生から意見をもらう時間もとる予定です。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めて下さい。 【到達目標】 本ゼミナールの目標は、日本の衰退の要因と食の安全保障の問題、および食品の安全性問題を中心に、メディアではあまり報道されない重要な情報を収集し、その真偽を検証する方法を学びながら、<いのち>や生き方についての各自の興味と考えを深め、本当に大事だと思う自分独自のテーマを発見することにあります。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 なぜ日本は衰退したのか 第3回 日本の資産が失われる要因について 第4回 格差社会と貧困問題 第5回 監視社会・管理社会の加速 第6回 日本の食料自給率 第7回 日本の農地の状況 第8回 戦争と食の安全保障 第9回 食品の安全性問題と予防原則 第10回 巨大企業の食料戦略 第11回 企業と研究者の癒着の問題 第12回 メディアの報道の問題 第13回 食品の安全性問題への先進諸国の取り組みに学ぶ 第14回 aのみ：まとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は必要ありません。 輪読用の本の購入費（一学期につき数千円程度）が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始時になりますので、まだ買わないで下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当番制で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。		
5. 教科書 とくに定めません。		
6. 参考書 『ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』—「惨事」を狙うのは誰か—』(NHKテキスト100分de名著) 堤未果。NHK出版、2023年。 『ルボ 食が壊れる—私たちは何を食わさせられるのか?—』堤未果。文春新書、2022年。 『世界で最初に飢えるのは日本—食の安全保障をどう守るか—』鈴木宣弘。講談社+α新書、2022年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日および最終授業終了直後に課題の解説と講評を行いません。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度（40%）、発表当番時の発表内容と質疑応答（40%）、他の発表者への質問と意見（20%）。		
9. その他 考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	牛尾 奈緒美
<p>1. 授業の概要・到達目標 人権尊重や多様性を容認する社会を実現するためにマスメディアの責務は重大である。マスメディアの発信するコンテンツは人々の価値観に影響を与え、世論形成や社会意識の醸成、正しく機能すれば啓蒙的役割も果たしうる。 そこで、本ゼミナールは「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、前半は「メディア表現におけるジェンダー」、後半は「メディア企業における組織のジェンダー」を中心に研究発表を行っていく。前半では、現代日本のマスメディア企業の発する情報や制作物を調査・分析し、それらがよりよい社会の形成を目指すうえで適切なものであるかどうか検討を行い、後半では、マスメディアの企業内部のジェンダー問題について分析の目を向けていく。当然のことながらジェンダーの視点には、女性問題のみならずLGBTに対する差別問題も含まれ、より広範には障がいのある無や国籍、人種、年齢等の属性による差別問題も視野に入る。ジェンダーを起点に、広くダイバーシティの問題にも焦点をあて、今後のマスメディアのあり方について考えていくことを目的とする。 具体的にはグループ単位で特定のケースについて調査・分析を行い、その結果をパワーポイントにまとめ口頭発表を行う。発表は学期中に複数回担当するように設計し、各発表に対しゼミナール全体で質疑応答や議論を展開していく。 授業の到達目標は、自分自身の問題意識を仲間と共有しながら議論し、最終的にはグループとしての研究発表にまとめ上げる能力を養うことにある。情報収集、分析、論理的思考、発表や議論でのコミュニケーション能力の向上も目指していく。</p>		
<p>2. 授業内容 第一回 インTRODクシヨン 第二回 プレゼンテーション① 第三回 プレゼンテーション② 第四回 プレゼンテーション③ 自己紹介を兼ね各自の考える社会的課題についてのプレゼンテーション 第五回 発表① 第六回 発表② 第七回 発表③ 第八回 発表④ 第九回 発表⑤ 「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。 マスメディアで発信されている各種コンテンツを批判的に分析する 第十回 発表⑥ 第十一回 発表⑦ 第十二回 発表⑧ 第十三回 発表⑨ 「メディア企業における組織のジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。 テレビ・新聞・雑誌・ラジオ 各業界を代表する企業調査 第十四回 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意 毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ること。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。</p>		
<p>5. 教科書 適宜、提示する。</p>		
<p>6. 参考書 適宜、提示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で指示する</p>		
<p>8. 成績評価の方法 授業への出席率と議論への参加状況で50%、グループ発表や課題提出状況で50%として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。</p>		
<p>9. その他 授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常時、時事問題やニュースに関心を払い、その知識に基づき議論に参加することが求められる。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	小田 光康
<p>1. 授業の概要・到達目標 このゼミのテーマは「ジャーナリズムの権力監視と経済調査報道」である。ゼミではジャーナリズムの監視機能と経済調査報道をテーマにしたワークショップを実施する。グループ分けをし、それぞれが決めたテーマについて調査研究をして発表・議論することで政治や経済の諸問題を理解することを目指す。このゼミでは和泉キャンパスで土曜日1回（9月28日）、基礎知識を習得する講義を行う。その後、明治大学山中セミナーハウスで2泊3日（10月25日～10月27日）のワークショップを開き、グループごとの調査研究をし、最終発表会を実施する。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 INTRODUCTIONと経済調査報道入門、グループ分け（和泉） 第2回 財務諸表概論（貸借対照表、損益計算書、CF計算書）（和泉） 第3回 経営分析法概論（収益性・効率性・安全性分析） 第4回 管理会計概論（CVP分析、利益差異分析） 第5回 BS/PL分析法 第6回 CF分析法 第7回 原価計算分析 第8回 企業の会計不正・粉飾決算と政治家の裏金スキームの事例研究 第9回 ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（1） 第10回 ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（2） 第11回 ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（3） 第12回 ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（4） 第13回 調査結果発表（セミナーハウス） 第14回 まとめと反省（セミナーハウス）</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは簿記や財務会計の知識がある程度必要になります。不安な学生は初回の和泉でのゼミでこれらの独学の方法を教えますので、合宿ゼミまでに学習しておいてください。細かな計算は必要ありません、大枠を理解する程度で結構です。また、このゼミでは和泉キャンパスで土曜日1回（9月28日）とその後、明治大学山中セミナーハウスで2泊3日（10月25日～10月27日）のワークショップを開きます。グループワークが主体なので、これら全てに参加できる学生のみ履修してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 政治経済の汚職事件の新聞記事は毎日必ず目を通すこと。</p>		
<p>5. 教科書 松瀬学・小田光康著『東京五輪とジャーナリズム』</p>		
<p>6. 参考書 EdX Global Muckraking: Investigative Journalism and Global Media 長谷部恭男、山口いつ子、宍戸常寿編『メディア判例百選 第2版』有斐閣、2018年</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミ授業中の質疑応答で対応します。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 ワークショップへの参加度（50%）とアウトプット内容（50%）で評価する。全授業の出席を成績評価対象とする。</p>		
<p>9. その他 政治経済の問題を発見し、その報道の社会的なインパクトを理解してください。学生同士で政治経済の問題を見つけ、世間にそれを問い、社会的な傾向を見つけるアプローチを学んでください。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	川島 高峰
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 本ゼミナールでは平成の社会文化の30年史を中心に、学ぶことにします。平成の30年間といっても学生諸君の多くは平成15(2004)年前後の生まれで、平成時代の特色がある程度、固まった正に平成のど真ん中に生まれてきた世代になります。もの心ついてから記憶にある平成時代とは平成21(2009)年前後からでしょう。従って、授業では次のことを説明します。 第一は、平成の社会文化の起原を戦後サブカルチャーと脱昭和／反昭和に見出し、これについて解説をします。 第二は、平成の社会文化の出来事、事実関係についての確認と解説です。 第三は、今日の日本の対外・対内文化政策について学び、これを導入として現代日本のいくつかの文化現象を取り上げます。そして、担当教員の科目「国際交流ベトナム」と連動して10月に短期留学に来るベトナムの学生と文化交流学習の機会を設定します。		
到達目標 平成の社会文化の30年史について、次の三つの問いを学ぶことにします。 1 平成30年間の社会文化は、あの時代の何を現わしていたのか？／象徴していたのか？ 2 それは今日の日本の社会文化、政治経済に何をもたらしているのか？ 3 そして、私たちはどんな未来の社会文化を創造していくのか？ この三つについて学生が考え、新しい日本人・日本文化の想像を養うものである。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 文化とは？ メディア・世代、アイデンティティ 第2回 自己紹介と日本文化紹介 第一部 文化の国際交流 現代日本文化、どう世界に紹介しますか？ 第3回 クール・ジャパン1 そもそも何ですか？ 日本ミーム蔓延!! 第4回 クール・ジャパン2 Kawaii・ゆるきゃら 第5回 クール・ジャパン3 「よさこい」からヨサコイ、そして、YOSAKOIへ 第6回 クール・ジャパン 学生交流報告 第二部 文化とは秩序への抵抗である サブカル本編 第7回 サブカル1 青春は不良たちの物語から始まった 第8回 サブカル2 第9回 サブカル3 勢力へと向かう文化 Y.M.OとMTV 第10回 平成の社会文化史1 まぼろしの郊外となった戦後日本とKamikaze Girls 第11回 平成の社会文化史2 ゼロ年代の想像力！ 新世紀エヴァンゲリオン、Death Note 第12回 平成の社会文化史3 所謂「セカイ系」以前の「セカイ系」 ガンダム・AKIRA等々々々々 第13回 平成の社会文化史4 昭和へのthe longest goodbye 3丁目の夕陽、20世紀少年 第14回 ミームと学際的異 ソーカル事件／土偶を考える／セカイ系という「世界」 ※情勢の変化により内容に変更が生じることがあります。		
3. 履修上の注意 本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修をすることをおすすめします。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 平成の自分史をワードなどで年譜風にまとめておきましょう。年表、アップロードしておきます。自身と日本と世界の政治・社会・経済・文化の出来事についての年表のようなものです。		
5. 教科書 『キーワードで見る 平成カルチャー30年史』三栄書房は、カタログ的に整理されていて便利です。内容がとても軽いので気楽に読んで良いでしょう。		
6. 参考書 宮台真司『まぼろしの郊外』朝日新聞社、「家－ムラ－クニ」という日本の文化社会の地殻崩壊を世に最初に指摘した本。 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』ハヤカワ文庫、これぞ平成文化論というところ。そこに含まれる正誤も含めて、です。 宮沢章夫『ニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版、面白いが、昭和世代による昭和世代のための回顧の観があり、平成世代には共感がしにくい語りかもしれない。しかし、日本のサブカル史の歴史を戦後から2013年まで俯瞰するにはよいです。 古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社 指摘していることはとても正しい。作者の人の好悪はともかくとして。昭和と平成の世代的な交錯と断絶を考えるのにとても良い。 毎日新聞社『平成史全記録』(2019) 辞書のように使えて便利。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。		
8. 成績評価の方法 講義に対するコメントで成績評価を行う。4回程度、実施予定であり、提出回数と内容で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	清原 聖子
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 2020年のアメリカ大統領選挙では、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中で、共和党のトランプ候補 v s 民主党のバイデン候補の激しい戦いが繰り広げられた。日本のメディアでも大統領選挙について連日のように大々的に取り上げられたため、日本の若者にとっても関心の高い選挙だったのではないだろうか。 本ゼミナールの目標は、メディア不信やメディアの分極化、といったアメリカのメディア環境の特徴について日本との比較の視点から理解を深め、現代アメリカ政治とメディアに関する諸課題を検討することである。授業では、アメリカ政治とメディアに関する文献やドキュメンタリー番組を用いて、大統領制と議院内閣制の違いや大統領選挙の仕組みなど、基本的なアメリカの政治制度について学んだ上で、履修生のグループ研究へつなげていく。2024年大統領選挙の動向についても観察する。 【到達目標】 到達目標は、3・4年次のゼミでの研究にも役立つように、グループワークとして問題を発見し、分析する力やプレゼンテーション能力を高めることである。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 アメリカのメディアの分極化 (講義) 第3回 2020年大統領選挙に関するドキュメンタリー番組を見てディスカッション 第4回 教科書輪読① 第5回 教科書輪読② 第6回 教科書輪読③ 第7回 教科書輪読④ 第8回 教科書輪読⑤、グループ研究テーマ相談 第9回 教科書輪読⑥、グループ研究テーマ決め 第10回 グループ研究発表準備① 第11回 グループ研究発表準備② 第12回 グループ研究発表① 第13回 グループ研究発表② 第14回 グループワーク振り返りレポート作成／まとめ *授業内容や順番には変更の可能性があります。		
3. 履修上の注意 無断欠席をしないこと。グループワークを行うため出席重視。ノートPC又はタブレット端末を授業に各自持参すること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 毎回教科書の指定された箇所を読んでディスカッションに臨むこと。2024年大統領選挙があるので、日ごろからアメリカの大統領選挙のニュースについて、テレビや新聞、オンラインニュースなどで情報収集しておくことを勧める。		
5. 教科書 『メディアが動かすアメリカ民主政治とジャーナリズム』渡辺将人、ちくま新書、(2020)		
6. 参考書 『教養としてのアメリカ研究』清原聖子(編)、大学教育出版、(2021) 『アメリカ政治の地学変動一分極化の行方』久保文明、中山俊宏、山岸敬和、梅川健(編)、東京大学出版会、(2021) 『アメリカ大統領選』久保文明、金成隆一、岩波新書、(2020) 『アメリカの政党政治一建国から250年の軌跡』岡山裕、中公新書、(2020) 『フェイクニュースに震撼する民主主義一日米韓の国際比較研究』清原聖子(編)、大学教育出版、(2019) 『現代アメリカ政治とメディア』前嶋和弘、山脇岳志、津山恵子(編)、東洋経済新報社、(2019) その他授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜授業時間内にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点(プレゼンテーション、ディスカッションへの参加貢献度)60%、グループ研究発表30%、グループ研究発表振り返りレポート10%		
9. その他 本授業は、アメリカ政治・文化・国際関係に興味のある人だけでなく、将来アメリカへ留学を希望する人にとっても役立つであろう。上級生との研究発表交流会の機会も予定している。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	熊田 聖
1. 授業の概要・到達目標 このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをまとめて提出します。 思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる 過去のテーマ例 ・USJかディズニランドか ・仕事はやりがい給料か ・自転車は乗れるようになっておくべきか ・ファンデーションはカバー力かテキストチャカか 【授業の概要】 SHOW (A)：起業家を演じましょう。 SHOW (B)：本について発表しよう。 SHOW (C)：自由に発表しよう。 どうしたら理科実験をしなくて伝えられるのかを、半期を通して考えてみましょう。エンターテインメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。 その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。 SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。		
2. 授業内容 第1回 発表テーマ、グループ決定 第2回 社会企業家を演じる (1)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第3回 社会企業家を演じる (2)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第4回 社会企業家を演じる (3)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第5回 ディベート 第6回 本について発表しよう (1)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第7回 本について発表しよう (2)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第8回 本について発表しよう (3)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第9回 ディベート 第10回 自由に発表しよう (1)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第11回 自由に発表しよう (2)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第12回 自由に発表しよう (3)、思索トレーニング発表、思索トレーニング 第13回 絵本を用いた質疑応答形式発表 (1) 第14回 絵本を用いた質疑応答形式発表 (2)		
3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。使用する教科書の実践編がゼミです。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。 このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。		
5. 教科書 熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。		
6. 参考書 授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。		
8. 成績評価の方法 評価は、 1) レジュメと発表内容 30% 2) 発表者へのアドバイス 30% 3) ディベートへの参加 20% 4) 思索トレーニングへの参加 20% 以上4点で行います。		
9. その他 男女比約1：1で楽しく仲良く活動しています。 教科書はゼミ費より支給します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	後藤 晶
1. 授業の概要・到達目標 テーマ： 「社会科学・行動科学のためのプログラミング入門」 授業の概要： 昨今では、心理学や神経科学のみならず、従来は実験という手法が用いられてこなかった経済学、会計学、政治学や社会学といった分野でも「実験」という手法が用いられている。ここでいう実験とは、実験室で実験参加者を対象に実施する実験室実験に限らず、広義な意味で現実の生活場面に実験を持ち込んだフィールド実験やコンピュータシミュレーション等も含まれている。「実験」を用いて社会における人間の行動の解明、さらに人間行動を踏まえた制度・政策設計を試みる「実験社会科学」という領域も確立しつつある。 本演習においては、様々な社会科学領域における「実験」の方法として、インターネットを使ったオンライン実験の手法について概要を学ぶ。 具体的には、Pythonの1ライブラリであるoTreeを用いて、「アンケート」と「経済ゲーム実験」をインターネット上で実施するためのプログラミングを学ぶ。同時に、ゲーム理論的な思考法についても涵養していくこととする。 また、ゼミの中では積極的に生成AIを用いてプログラミングを行う予定である。プログラミングの中で生成AIを用いることで、生成AIのメリット・デメリットなどについても実感してもらいたい。 なお、本演習ではプログラミング経験は問わない。過去にプログラミングを学んだことがない学生も臆せず参加してほしい。		
到達目標： 1. 社会科学・行動科学領域における実験の意義について説明することができる。 2. Pythonによるプログラミングの基礎を理解できる。 3. ゲーム理論の基本的な考え方を理解できる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 生成AIを用いたプログラミング環境の構築 第3回 プログラミングの基礎 (1)：アンケートの作成 第4回 プログラミングの基礎 (2)：公共財ゲーム実験の作成1 第5回 プログラミングの基礎 (3)：公共財ゲーム実験の作成2 第6回 プログラミングの基礎 (4)：さまざまな入力方式の検証 第7回 プログラミングの応用 (1)：最終提案ゲームの作成1 第8回 プログラミングの応用 (2)：最終提案ゲームの作成2 第9回 プログラミングの応用 (3)：最終提案ゲームの作成2 第10回 実験計画の立案 第11回 実験設計 (1) 第12回 実験設計 (2) 第13回 実験設計 (3) 第14回 発表・総括 ※ただし、履修状況により変更することがある。		
3. 履修上の注意 ・演習形式の授業であるために出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料 (講義資料) を用意して出席すること。 ・この授業ではPythonを用いたプログラミングを行う。授業でも紹介するが、自宅のPCにもPythonおよび適切なIDEをインストールすること。 ・この科目ではBYOD (Bring Your Own Device) を前提とするため可能であればノートPCを持参すること。ただし、持っていない場合でも履修に大きな問題はない。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 小課題の提出・発表の準備等が必要となる。		
5. 教科書 これから出版が予定されている教科書を用意してもらう予定だが、予定通りに出版されなかった場合には教員が別途資料を用意する。		
6. 参考書 適宜授業内で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。		
8. 成績評価の方法 毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30% 毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。 課題の評価：発表資料を評価する。 レポート：学期末にレポートを課す。		
9. その他 演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「問題発見テーマ演習A」で得られた知識が「問題発見テーマ演習B」の理解に有用であるために連続して受講することを勧める。しかし、必ずしも連続した受講を前提としない。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	小林 秀行
1. 授業の概要・到達目標 この講義の趣旨は、学習を通して、課題の発見・情報の入手・情報の整理・プレゼンテーション・レポート作成など、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることにあります。講義の到達目標は、「正解のない問いへの向き合い方を獲得すること」「自ら問題設定ができる能力を獲得すること」「自然災害に関する基礎的知識を獲得すること」の3点とします。気候変動の影響を受けて世界的に増加傾向にある自然災害だけでなく、戦争や迫害、感染症、公害など、人類の歴史は「災禍 (catastrophe)」と向き合い続けてきた歴史だともいわれています。このような災禍はわれわれの生活を脅かし、時にはそのあり方を大きく変化させるため、様々な形のつながりを通し、その変化に対応しようとしてきたことは、現代社会の姿をみても理解できるところかと思えます。この際、われわれは言語や絵画、音楽、映像、舞踊やモニュメントなど、多様な形のコミュニケーションを通して、災禍と向き合い、そして災禍の経験を継承しようと試みてきました。現代社会でコミュニケーションといえば、マスメディアやSNSがすぐに思い浮かんでくるかもしれませんが、このように社会の中で行われるコミュニケーションはきわめて多様であり、とりわけ人命がかかわる災禍をめぐる場合は、その1つ1つが試行錯誤のなかで紡ぎだされてきました。本講義では、このような事実を背景として「災害の捉え方を発見する」を春学期・秋学期の共通テーマに設定し、社会が災禍、とくに自然災害をどのように捉えてきたのかについて、「演習形式」で講義を展開します。秋学期の問題発見テーマ演習Bでは、とくに災害社会学に関する基礎的知識の獲得を主眼に置き、担当教員が作成した副教材をもとに学んでいきます。具体的には毎週、oh-meijiを通じて課題動画(および講義コマ分)を公開します。各課題動画に対して、受講生には「司会」「報告者」「話題提供者」「コメントレーター」の役割が割り振られますので、講義ではそれぞれの役割に応じて報告およびディスカッションを行っていくこととなります。なお、述べたように本講義では災禍、とくに自然災害を対象としています。災禍の議論は、常に、それによって苦しむ人々の存在と向き合うことになり、決して明るい話題とは言えません。しかし、誰かがそうした問題を議論し、解決のための道筋を考えなければ、社会には苦しむ人々が残されたままとなります。本講義は、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることを主たる目的としており、どのような学生の受講も妨げるものではありませんが、上記の趣旨に賛同し、こうした問題について学んでみたいという学生を特に歓迎します。		
2. 授業内容 第01回 イン트로ダクション：災害の捉え方を“発見”する 第02回 講義①：災害の捉え方のこれまで 第03回 講義②：災害への関心と消費 第04回 映像視聴① 第05回 映像視聴② 第06回 グループディスカッション① 第07回 映像視聴③ 第08回 映像視聴④ 第09回 グループディスカッション② 第10回 演習①：社会は災害をどのように捉えているのか 第11回 演習②：社会は災害をどのように捉えているのか 第12回 演習③：社会は災害をどのように捉えているのか 第13回 演習④：社会は災害をどのように捉えているのか 第14回 演習⑤：社会は災害をどのように捉えているのか (担当教員の判断により、適宜変更することがあります。)		
3. 履修上の注意 ○本講義は主として演習形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意思のないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。○環境への配慮、感染症に対する感染防御の観点から、配布物やリアクション・ペーパー等はすべてoh-meijiを通して行います。そのため、講義中にPCおよびタブレット端末を用いて資料を閲覧することを認めます。紙媒体で資料を用意するよう指示があった場合や、必要を感じた場合は各自で印刷をお願いします。○なおスマートフォンの使用については、資料閲覧を行うには一貫性が低すぎるという理由から使用を禁じます。PCもしくはタブレット端末をご利用ください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 予習：課題動画を視聴したうえで、関心のある箇所については専門書にあたり、理解を深めておくこと。 「報告者」「話題提供者」となっている場合には、事前に資料を作成し、共有しておくこと。 復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。		
5. 教科書 日本災害復興学会(編)(2023)『災害復興事典』朝倉書店		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。		
8. 成績評価の方法 講義への主体的な参加 (50%)、期末レポート (3,000字以上) (50%) なお、指定感染症など大学が認める理由以外で4回以上欠席した場合、いかなる事情によっても単位認定を行わないので注意すること。		
9. その他 本講義は3年次の問題分析ゼミナールに向けた導入という位置づけになりますので、担当教員の問題分析ゼミナールを志望される方は受講を強く推奨します。ただし、受講していない場合でも、3年次以降に動画を視聴いただく形で対応可能ですので、必須ではありません。また、もちろんですが担当教員の問題分析ゼミナールを志望されない方も、ご関心があるようでしたら是非、受講いただければと思います。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	島田 剛
1. 授業の概要・到達目標 コーヒーやチョコレートはどんな人が生産し、どのようにして私たちの元へ届くのでしょうか？そして生産者の人たちはどんな暮らしをして、何を考え、感じているのでしょうか？ グローバル化が進み世界が一体化するとともに、国内でも世界でも経済格差が拡大しています。このゼミでは国内の貧困と途上国の貧困を同時に考えます。 このゼミではコーヒーを題材として取り上げ、そこから国内外の貧困問題を考え、皆で議論をします(数週間に1度は発表)。 街づくりでは主に神保町を対象にします。それは、この地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからです。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもあります。 こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成します。同時に、より途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成します。		
(到達目標)ゼミ生はコーヒーという財を通じて、世界経済と都市のあり方について理解を深め国際経済を見る視点を身につける		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 研究のノウハウの復習 第3回 コーヒーからみるグローバル化 第4回 生産国の現状分析 ① 第5回 生産国の現状分析 ② 第6回 生産国の現状分析 ③ 第7回 各班による中間発表 第8回 生産国に共通する課題は何か、違いは何か 第9回 経済成長を考える 第10回 「利潤」はどこから来るか 第11回 グループ発表準備 ① データ収集・分析 第12回 グループ発表準備 ② 論点の確認 第13回 グループ発表 ① 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 3-4年の島田ゼミのHPを見るとゼミの内容がイメージしやすくなるので履修前に見ることをおすすめします。 ・神保町コーヒープロジェクト (https://jimbocho-coffee.com/) ・3分の1のパン屋さん (https://meijinow.jp/meidainews/news/65614) ・ステイグリッツ教授(ノーベル経済学賞)とゼミ生の対話 (https://youtu.be/VjmxTheLvv8) 講師が別に開講しているミクロ経済学、マクロ経済学の授業を受講することが望ましい。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 プレゼンテーションの準備が必要		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 島田剛 (2023)『ミクロ経済学への招待』(新世社) ジョセフ スティグリッツ・島田 剛 (2020)『グローバル化する世界における経済学者の役割とは』『経済セミナー』第712号pp.8-18. (https://researchmap.jp/goshimada/misc/42815745/attachment_file.pdf) 神戸新聞編集委員インタビュー「緒方貞子さんが遺したものは」(https://researchmap.jp/goshimada/misc/36523132/attachment_file.pdf)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミにおける発表に対してコメントをすることによりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 発表 (60%)、ディスカッションへの貢献度 (40%) 欠席・遅刻が多い場合は不可とします。無断欠席5回で以後の参加を認めません。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	鈴木 雅博
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>学校では、さまざまなコミュニケーションが交わされています。教室では、教師が質問し、生徒が答えています。授業はいつかの面で日常会話とは異なる形式をとります。例えば、通常は、知らない者が問い、知っている者が答えるのですが、授業では逆です。知っている者が知らない者に尋ね、返答に評価を与えることで授業が進んでいきます。もちろん日常会話に重なることもあります。評価の与え方を見てみましょう。教師は生徒の返答が正しければ、すぐに「そうですね」とプラスの評価を述べますが、間違っていた場合はどうでしょう。即座に「違います」と言う先生はあまりいないはず。「うーん、そういう見方もできるかもしれないけど……」と言葉を継ぎながら生徒の返答をどうにか正答へとつなげていこうとするのではないのでしょうか。ポジティブな評価にはためらいがない一方、ネガティブな評価を与えなければならない場合には、「うーん」とか「いやー」といった言い淀みが生まれます。これは相手への配慮を示すものであり、日常会話にも見られます。</p> <p>また、職員室や会議室では、生徒の成長や問題をめぐって教師間で盛んにコミュニケーションがとられています。そこではどんな言葉が発せられ、それによって何が為されているのでしょうか。教師間のやりとりは、組織としての学校がそれとして立ち現れる場面として捉えることができるでしょう。他にも、保健室や休み時間中の廊下におけるやりとりなど、学校は多様なコミュニケーションであふれています。</p> <p>本演習では、このような学校における相互行為を対象とした研究をレビューしていきます。とりわけ、エスノメソドロジーの方針による先行研究を中心に検討していきます。これは「どうすれば学校がよくなるのか」という問いに直接答えるものではありません。しかし、そうした処方を考える上で、まずは何がどうなっているのかを明らかにすることが必要なのだと考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>・学校におけるさまざまな相互行為に関する先行研究を読解し、批判的に検討することができる。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 インTRODクシヨ</p> <p>第2回 エスノメソドロジーとは何か</p> <p>第3回 学校組織 (1)</p> <p>第4回 学校組織 (2)</p> <p>第5回 教師の自律性</p> <p>第6回 教師の多忙</p> <p>第7回 生徒指導</p> <p>第8回 いじめ (1)</p> <p>第9回 いじめ (2)</p> <p>第10回 授業 (1)</p> <p>第11回 授業 (2)</p> <p>第12回 保健室</p> <p>第13回 生徒文化</p> <p>第14回 教員文化</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>問題発見テーマ演習A (エスノメソドロジー入門) と連続して受講することをお勧めします。</p> <p>欠席5回で評価対象外とします。</p>		
<p>4. 準備学習 (予習・復習等) の内容</p> <p>発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>特に指定しない。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>授業中に適宜指示します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>授業中に行います。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>議論への参加態度 (20%)、レポーターとしての発表 (80%)。</p>		
<p>9. その他</p> <p>ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	関口 裕昭
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>「映画と文学の比較研究」</p> <p>「読んでから見るか、見てから読むか」とは、かつてある映画の宣伝に使われた文句ですが、みなさんも実際に迷ったことがあるのではないのでしょうか。文学と映画はメディアが異なるので、同じ原作をもとにしていても、内容にも微妙なずれが見られ、表現の方法や理解の仕方も異なってきます。同じ原作を文字と映像という二つの異なるジャンルから「読む」ことを通して、作品の持つ豊かさともた解釈の難しさを学びます。</p> <p>この授業では、前半は前期に扱ったメルヘンがどのように映像化されているのかを考えます。また後半では、有名な文学作品がいかにか映像化され、どのような変容が生じているのかを詳しく考察します。テーマの性質上、映画を見る時間が多くなることをあらかじめ承知しておいてください。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 INTRODUCTION—映画分析の手法・映画の文法を学ぶ</p> <p>第2回 映画の中のグリム童話—『手なし娘』の鑑賞と分析②</p> <p>第3回 映画の中のグリム童話—『白雪姫』の様々な映画を比較する</p> <p>第4回 グリム童話のオペラ化—フンパーディングのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』</p> <p>第5回 「田舎医者」をカフカの原作とアニメーションで比較する</p> <p>第6回 映画『第三の男』の鑑賞と分析①</p> <p>第7回 映画『第三の男』の鑑賞と分析②</p> <p>第8回 シェイクスピア『ヴェニスの商人』原作と映画化の比較研究①</p> <p>第9回 シェイクスピア『ヴェニスの商人』鑑賞と原作との比較研究②</p> <p>第10回 シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと』の比較研究①</p> <p>第11回 シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと』の比較研究②</p> <p>第12回 映画『グッバイ・レーニン』からドイツ統一の歴史を学ぶ①</p> <p>第13回 映画『グッバイ・レーニン』からドイツ統一の歴史を学ぶ②</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>(以上は大体のスケジュールです。受講者の希望も聞きながら、扱うテキストや映画を変更することもあります)</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>「問題発見テーマ演習A」「問題発見テーマ演習B」は一応それぞれ独立していますが、Bの前半はAで学んだ前半の応用でもあるので、セットで受講すると理解が一層深まります。前期と同様、授業中の飲食、スマホの利用を禁止します。</p>		
<p>4. 準備学習 (予習・復習等) の内容</p> <p>前期を履修していない人は、グリム童話を10以上読み、「しらゆきひめ」と「ヘンゼルとグレーテル」は必須)、加えてメルヘンに関する基本的な文献に目を通しておいてください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>特にありません。プリントを配布するか、またはパワーポイントを用います。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>たくさんありますので授業中に紹介します。しかし後半見る映画の原作はどれも長編ですので、あらかじめ読んでおくことをお勧めします。訳は複数出ているものがほとんどですので、特に指定しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフカ「田舎医者」 ・グレアム・グリーン『第三の男』(早川文庫) ・シェイクスピア『ヴェニスの商人』 ・バルンハルト・シュリンク『朗読者』 		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>授業で適宜指示します。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>出席+平常点 (50%) +学期末レポート (50%)</p>		
<p>9. その他</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	大黒 岳彦
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイーロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキャッチワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起きました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。		
本ゼミナールでは、このような新しいメディアテクノロジーの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 第一回 自己紹介 第二回 ガイダンス 第三回 暗号通貨 (1) 第四回 暗号通貨 (2) 第五回 VRとは何か (1) 第六回 VRとは何か (2) 第七回 ポスト・トゥルースとは何か (1) 第八回 ポスト・トゥルースとは何か (2) 第九回 情報倫理とは何か (1) 第十回 情報倫理とは何か (2) 第十一回 メタヴァースとは何か (1) 第十二回 メタヴァースとは何か (2) 第十三回 生成AI 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 基本的には講義ですが、適宜討論や課題を織り交ぜます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各自がそれぞれのアンテナを張り巡らして、最新テクノロジーの動向に敏感であってください。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 購入を義務付けることはしませんが、講義の内容が書籍になっているので繙読をお勧めします。 大黒岳彦『〈情報的世界観〉の哲学——量子コンピュータ・メタヴァース・生成AI』（青土社） 大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉——グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房） 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポスト・トゥルース』（青土社） 大黒岳彦『「情報社会」とは何か？——〈メディア〉論への前哨』（NTT出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 出席および授業中のパフォーマンス100%。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	竹崎 一真
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近年急速に広がるデジタルテクノロジーとその影響で変貌しつつある「身体」を社会学的な視点から検討します。メディアのデジタル化やAIなどの新しい技術は、私たちの身体に対する考え方を根本的に変えようとしています。アスリートのパフォーマンスはもはや人間の経験ではなく、データに依存し始めています。また私たちの身体の内面も、スマートフォンやスマートウォッチなどのデジタルデバイスと同期することで作られるようになりました。あるいはInstagramなどSNSの発達は、身体コミュニケーションの新しい形態を生み出しました。こうしたデジタルテクノロジーと私たちの身体の関係性を社会学的な見地から考えていきます。		
【到達目標】 自ら問題を発見し分析する力を養うとともに、思い込みや根拠なき判断に囚われない思考の獲得を目指します。		
2. 授業内容 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献講読1-① 第3回 文献講読1-② 第4回 文献講読1-③ 第5回 文献講読2-① 第6回 文献講読2-② 第7回 文献講読2-③ 第8回 研究プロジェクト①グループ 第9回 研究プロジェクト②グループ 第10回 研究プロジェクト③グループ 第11回 研究成果発表①グループ 第12回 研究成果発表②グループ 第13回 研究成果発表③グループ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 グループで研究を行ってもらいます。ゼミ以外での学習（研究）時間を確保してください。		
5. 教科書 海老原豊著『ポストヒューマン宣言：SFの中の新しい人間』（2021年）小鳥遊書房 山本敦久著『ポスト・スポーツの時代』（2020年）岩波書房		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎授業時に行います。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、研究発表50%		
9. その他 何かあれば連絡します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	竹中 克久
1. 授業の概要・到達目標 現代社会においては、組織とかかわらずに社会生活を営むことは難しい。学校という組織以外の場所で学ぶことは難しいし、病院という組織以外の場所で病気を治療することも難しい。また、多くの労働者は、企業や行政機関といった組織で給与を得るだろうし、多くの消費者は、企業や行政機関といった組織から製品やサービスを受けているだろう。このように私たちは組織と深く関わりを持っており、そのために組織と社会について学ぶ必要がある。 組織とは個人ではなしえないことを可能にするために、人間が産み出した発明品である。この発明品は非常に優れており、大きな成果を生み出すこともあれば、そこに所属することによって愛着などの感情を得ることを可能にし、居場所ともなり得る。これは組織の「正」の側面とっていいだろう。 ところが、組織は成果を生み出すために犠牲となる存在、すなわち、「過労死」「過労自殺」を生み出すこともある。また、組織内である種の価値観の押しつけ＝洗脳が行われることによって、愛着に見せかけた絶対的な忠誠心をメンバーに持たせることもある。その意味では、居場所だと信じていたところは監獄かもしれない。これは組織の「負」の側面といえるだろう。 本ゼミナールでは、論文や記事を輪読することによって、組織という対象について深く学び、組織の「正負」の側面を分析できる能力を身につけることを目標とする。また組織にかかわる問題として、家族や運動といった現象についても取り上げる。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション——組織社会学とは何か 第2回 論文読解1：組織とコミュニケーション 第3回 記事読解1：社内恋愛 第4回 論文読解2：現代社会における家族の変容 第5回 記事読解2：GAFAと愛社精神 第6回 論文読解3：ヘイトスピーチ 第7回 記事読解3：人前で泣くリーダー 第8回 論文読解4：テレワークでの社員監視がもたらす5つの恐怖 第9回 記事読解4：カスハラ 第10回 論文読解5：監視社会と組織 第11回 記事読解5：理不尽な校則 第12回 論文読解6：なぜ「貧困」という問題が表面化しないのか 第13回 記事読解6：AI婚活 第14回 まとめ ※内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必ず事前に論文・記事を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。		
5. 教科書 教科書は使用しない予定である。論文・記事はOh-olMeijiにupする。		
6. 参考書 特に使用する予定はない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のディスカッションにおいて、フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%		
9. その他 物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎する。また、記事・論文を精読する文章読解能力を有していることが必要である。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	田中 洋美
1. 授業の概要・到達目標 《デジタルテクノロジーの社会学》と題して、近年急速に広がるデジタルテクノロジーについて社会的な視点から検討します。メディアのデジタル化やAIなどの新しい技術の利用を通じた従来の社会秩序の再編に焦点を当て、私たちが生きる社会のあり方について理解を深め、今後あるべき未来についても考えていきます。社会学は社会の成り立ちについて様々な理論と実証研究に基づく知見を提供してきました。本演習では特に差異・格差の再生産に注意を払いながら、様々な角度からデジタル社会の現状について考えます。 本演習を通して、自ら問題を発見し、分析する力を養うとともに、思い込みや根拠なき判断に気付き、それらに囚われない思考の獲得を目指します。		
2. 授業内容 授業の前半では、文献講読を通じて、現状についての基礎的知識を獲得します。その上で後半では、各自あるいはグループで事例研究を行います。その成果を口頭発表し、レポートにまとめていきます。 《デジタルテクノロジーの社会学》 第1回 初回ガイダンス 第2回 デジタルテクノロジーとは？ 第3回 新興技術を軸とする社会変動 第4回 労働・雇用の現在・未来 第5回 データ、監視、資本主義 第6回 政治の変容 第7回 娯楽メディアのデジタル化 第8回 スマホ／ソーシャルメディアと依存 第9回 デジタルテクノロジーと文化実践 第10回 研究プロジェクト(1) 第11回 研究プロジェクト(2) 第12回 研究成果の発表(1) 第13回 研究成果の発表(2) 第14回 まとめ議論、レポート提出 ※履修人数等により変更の可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・予備知識は不要ですが、問題意識が必要です。 ・授業時間外での取り組みがあります。学習意欲のある人のみ履修してください。 ・最終回を除いた計12回のうち、病欠等合理的理由による欠席は2回まで可、特段の理由や相談がない場合、無断欠席2回で以後の出席・単位修得不可となります。特段の理由のない大幅な遅刻は減点対象、50分以上の遅刻は欠席扱いです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 文献講読など予習があります。また口頭発表・レポート課題の準備等、授業時間以外の取り組みが求められます。		
5. 教科書 教員の方で様々な教材を用意します。		
6. 参考書 井上智洋, 2019, 『純粋機械経済』日本経済新聞出版社 J.パートレット, 2020, 『操られる民主主義』草思社 A. ハンセン, 2020, 『スマホ脳』新潮社 S. ズボフ, 2021, 『監視資本主義』東洋経済新報社 小林信重編著, 2020, 『デジタルゲーム研究入門』ミネルヴァ書房など その他、授業で指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭（面談）もしくはメール等文章で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度、課題への取り組み）50% 最終レポート50% 評価の対象となるには、80%以上の出席が必要です。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	田村 理
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>冤罪事件をめぐるテレビ報道の姿を描いた長澤まさみ主演ドラマ『エルピス』は、高い評価を得て2022年の賞を総なめにしました。長澤まさみ演じる浅川、眞栄田郷敦演じる岸本の奮闘とともに、報道局主流側の日和見も印象的です。</p> <p>このゼミで考えるのはこの「日和見」です。日本国憲法21条には表現の自由が定められており、報道機関には報道の自由も保障されます。しかし、ここで描かれた日和見の報道機関には表現・報道の自由を保障する意味がありません。できるかぎり多くこのドラマを皆で観ながら、なぜそうなるのか、そのままでもいいのか、どうしたらいいのかを考えることがこの授業の目的です。</p> <p>また、このような「日和見」は、テレビ局に限らず、大学にも、他の会社や役所にも、私達の社会のありとあらゆるところで存在します。そうだとすると私達の社会は憲法上の人権なんていらぬ社会かもしれません。それでよいのか、どうしたらよいのかについて、問題意識をもち、考察をする方法を身につけることがこのゼミの到達目標です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回：ゼミの目的と方法；ガイダンス 第2回：イントロ：身近にもある冤罪誤報 第3回：なぜニュースはまちがうのか① 第4回：なぜニュースはまちがうのか② 第5回：テレビ報道の特徴① 第6回：テレビ報道の特徴② 第7回：テレビ報道と国家権力① 第8回：テレビ報道と国家権力② 第9回：テレビ報道と国家権力③ 第10回：テレビ報道と国家権力④ 第11回：テレビ報道と国家権力⑤ 第12回：報道の自由不要の国の現状を考える 第13回：報道の自由不要の国の行く末を考える 第14回：まとめ</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>出席して、言われたことをやっているだけの参加者には単位を出しません。</p> <p>ゼミ時間外にも時間を割いて、自分がこれまで蓄えてきたものとはちがう新しい知識を身につけ、それを使って行う新しい思考と主張の方法を身につけるために積極的に取り組む意思をもって受講してください。</p> <p>*このゼミは春学期に同時間に開講する「問題発見テーマ演習A」（ドラマ『MIU404』で考える適法手続主義・法治主義の必要性：「憲法のいらぬ国」の現在と未来①）と連続性をもたせてあるので、セットでの受講を一考してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>○予習 第3回から第6回は、参考文献に掲げた本の必要箇所を全員で分担して要旨を報告してもらいます。 第7回から第13回は、教科書に指定した本を全員で読んで、議論します。これについては、毎回全員に要旨のまとめ、疑問点を文章中で提出してもらい、それに基づいて議論します。</p> <p>○復習 授業中の議論で解決できなかった問題については持ち帰って調べ、文章中で報告してもらいます（復習）。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>川端和治『放送の自由 その公共性を問う』（岩波新書・2020年）</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>林直哉、松本美須々々丘高校放送部『ニュースがまちがった日』（太郎次郎社エディタス・2004年） 田中周紀『TVニュースのタブー』（光文社新書・2014年）</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することになります。</p> <p>授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>以下の配点で成績評価をします。</p> <p>ゼミ中の発言・質疑・応答：50点 ゼミ内で求めた提出物：50点</p> <p>※正当な理由を事前に知らせないままの遅刻・欠席は減点します。 また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。</p>		
<p>9. その他</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	ドウ, ティモシー J
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>過去25年間、ハリウッドのSF映画は映画業界で非常に人気になり、興業収入が多いジャンルの1つになっています。SF映画は多くの視聴者に人気があり、それだけでなく、SF映画は、検討し議論するのに面白い多くのテーマがとりあげられています。SF映画を見て、科学が私たちの現代の社会と将来の社会に及ぼす影響を考えることができます。</p> <p>到達目標は次のとおりです。(1) SF映画に関する活動を通じたアカデミック英語力（話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと）を養います。(2) 授業で観る短編映画の話題に加えて、学生は個人的に興味のあるテーマに関連する短いプレゼンテーションを作成します。(3) 映画やその他の芸術作品に対する自分の意見を述べるのに役立つ有用な英語の語彙やフレーズを学びます。</p> <p>Contact details: timdoe@meiji.ac.jp</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 Introduction to film studies 第2回 The genre of science fiction 第3回 Analyzing film scenes 第4回 Early science fiction films 第5回 Analyzing film plot and story 第6回 Exploration in science fiction film 第7回 Analyzing film style, Test 1 第8回 Alien invasion in science fiction film 第9回 Analyzing sound in film 第10回 Robots in science fiction film 第11回 Analyzing character development 第12回 Dystopia in science fiction film 第13回 Comic book superheroes and SF films, Test 2 第14回 The future of science fiction film</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>このゼミナールは CLILアプローチ（内容言語統合型学習）を使います。SF映画を学びながら、スピーキングスキルやアカデミック英語力を養います。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>テーマに基づいた課題を完成させること。グループワークの準備が必要なこともあります。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>英語の雑誌の記事などを読みやすくし、コピーを配布します。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>特にありません</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>授業のとき、宿題の正答とテストの解説と講評を行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>グループワーク（20%）、宿題（30%）、テスト（50%）。</p>		
<p>9. その他</p> <p>このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	中里 裕美
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、社会学をはじめ経営学、政治学、人類学、社会疫学といった幅広い分野で近年発展を遂げてきている「社会ネットワーク分析」をテーマとします。社会ネットワーク分析は構造主義的なモノに対する考え方が背後にあり、行為者の属性ではなく、その「関係性」に着目して現象を捉えようとする方法論になります。そして、社会ネットワーク分析の対象は、人間関係から企業・組織間関係、国家間の関係など様々なものが含まれます。 本ゼミナールでは、このような社会ネットワーク分析にかんする基礎知識を習得するとともに、実際の関係データを分析することを通して、自己と他者、そして社会現象に対する多角的な視点を身につけてもらうことをねらいとします。 本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。 まず、テキストを輪読して、ネットワーク分析の背後にある理論やこれまでのネットワーク分析を用いた研究事例など、基礎的な事柄について学びます。またその過程で、様々なネットワークの事例を紹介するので、人間関係のネットワークを中心に、各自が関心のある／研究してみたい分野・領域のネットワークを決めてもらいます。そして、そのネットワークを分析するためのデータの作成とその解析用のソフトウェア (UCINET) に関する知識を深めてもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、それぞれのネットワークを分析してもらいます。また、その結果を授業内にて報告・議論し、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン (文献担当決め等) 第2回 ネットワーク分析とは (テキスト第1章) 第3回 ネットワークのデータとモデル① (テキスト第2章前半) 第4回 ネットワークのデータとモデル② (テキスト第2章後半) 第5回 ネットワーク分析の応用研究① (テキスト第3章前半) 第6回 ネットワーク分析の応用研究② (テキスト第3章後半) 第7回 ネットワークを支えるもの (テキスト第4章) 第8回 ネットワーク分析 (UCINET) の実習 (1) 第9回 ネットワーク分析 (UCINET) の実習 (2) 第10回 中間報告会 第11回 データ分析とまとめ(1) 第12回 データ分析とまとめ(2) 第13回 成果報告会 (1) 第14回 成果報告会 (2) 履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。また、社会ネットワーク分析を行うためのWindowsが使用できるノートPCを各自で用意してください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書 『ネットワーク分析—何が行為を決定するか』安田雪著 (新曜社) 1997年 ※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。		
6. 参考書 授業時に随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、最終レポート50%		
9. その他 グループ単位で行ってもらう課題が多いため、他の受講生と協働しつつ、積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	中臺 希実
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代のTVドラマや映画、小説などと同様に、江戸時代には娯楽として人々に受容された浄瑠璃・歌舞伎などのメディアがあります。これらの江戸時代のメディアには、人々の生活を題材として当該期の世相を反映し、人々にジェンダー観などの意識を再生産する働きもありました。これらの近世メディアを歴史史料として利用するとどんな歴史像が描けるのか、利用する際の注意点などを学びながら、批判的に史料 (浄瑠璃や歌舞伎) を読み、必要な資料やデータ、論文などを収集する方法、さらには自身の考えを正確に説明する技術、ディスカッションの習得を目指します。 【授業の到達目標】 ・正確に文献を読み、必要な参考文献を収集する力の習得 ・自分の意見を論理的に他者に伝えることが出来る ・他者の報告に対し、建設的な意見を述べることが可能となる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクシヨン<秋学期> 第2回：レジュメ・レポートの作成方法について① 第3回：前近代における娯楽と権力関係/娯楽と民衆 第4回：史料を読む①江戸時代のメディアから考える「生きづらさ」とジェンダー 第5回：史料を読む②江戸時代のメディアから考える「生きづらさ」とジェンダー 第6回：報告・ディスカッション① 第7回：報告・ディスカッション② 第8回：史料を読む③江戸時代のメディアから考える暴力と娯楽 第9回：史料を読む④江戸時代のメディアから考える暴力と娯楽 第10回：報告・ディスカッション③ 第11回：報告・ディスカッション④ 第12回：史料を読む⑤江戸時代の「幸せ」—教育とジェンダー規範— 第13回：報告・ディスカッション⑤ 第14回：報告・ディスカッション⑥ *授業内容に関しては、変更する可能性があります		
3. 履修上の注意 予備知識などは必要ありませんが、考えること、議論することに対し、真摯な態度で講義に望んでください。 ゼミ生の興味関心によっては、近現代のメディアを取り上げることもあります。 無断欠席はしないこと。自身の報告回に、無断欠席した場合は不可となります。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 当番制でレジュメを作成し、報告してもらいます。 担当となった人は、報告テーマに関して、事前に十分な準備をしてください。 また、自分以外の人が担当する報告についても、提示された参考文献などに目を通すようにしてください。 自分の報告回以外でも、報告に関して自分の意見や疑問、感想を投げかけてください。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 『性差の日本史』編国立歴史民俗博物館 (岩波書店) 『性からよむ江戸時代』沢山美果子 (岩波書店) 『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』編総合女性史学会 (岩波書店) 『深化する歴史学—史料からよみとく新たな歴史像編歴史科学協議会 (大月書店)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミのなかで、毎回解説を行う。		
8. 成績評価の方法 出席、ゼミ報告での発表50%、報告レジュメ50%		
9. その他 歴史学を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	日置 貴之
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 歌川広重が安政3年（1856）から5年（1858）にかけて描いた連作の錦絵『江戸名所百景』全119枚には、江戸時代末期、現在から約160年前の江戸の風景が描かれている。この連作の一枚一枚について、描きこまれた場所が、製作当時にはどのように人々に認識されており、なぜ描くべき名所として選ばれたのかを、各種同時代資料の調査を通して考察する。また、画中の風景がその後、現代に至るまでにどのように変容したか（あるいはしなかったか）を、フィールドワーク等も交えつつ調査し、それらの「名所」が現代の私たちにとってはどのような意味を持つ場所であるのかを考える。 【到達目標】 過去の芸術作品および芸術・文化と社会との関係について、文献等の資料に基づいて調査をおこない、自身の考えを持つことができる。また、その考えを適切な方法で他者に伝えることができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション～錦絵と名所 第2回：名所絵の読み方 第3回：グループディスカッション（1）～『江戸名所百景』1枚目 第4回：グループディスカッション（2）～『江戸名所百景』2枚目 第5回：グループディスカッション（3）～『江戸名所百景』3枚目 第6回：受講者による発表（1）～『江戸名所百景』4枚目 第7回：受講者による発表（2）～『江戸名所百景』5枚目 第8回：受講者による発表（3）～『江戸名所百景』6枚目 第9回：受講者による発表（4）～『江戸名所百景』7枚目 第10回：受講者による発表（5）～『江戸名所百景』8枚目 第11回：受講者による発表（6）～『江戸名所百景』9枚目 第12回：受講者による発表（7）～『江戸名所百景』10枚目 第13回：受講者による発表（8）～『江戸名所百景』11枚目 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 受講者に主体的に調査・報告をしてもらうので、積極的に授業参加をすることを望む。授業時間外でも、各自でのフィールドワークなど、かなりの時間の作業をおこなってもらうことになるので、その旨を理解した上で受講すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回の授業時に、より詳細な授業計画および参考文献一覧を配布するので、それを参考にして各回の授業前に予習を行った上で授業に参加すること。 受講者は事前に『江戸名所百景』の任意の一枚を選び、画中の「名所」について、各種資料の調査をおこなうとともに、構図等についての考察をおこなう。また、描かれた「名所」がその後現在に至るまでにどのような変遷をたどったかについても調査をおこない、調査・考察内容について授業で報告をおこなう。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 太田記念美術館監修『広重名所江戸百景』美術出版社、2017年 大久保純一『広重と浮世絵風景画』東京大学出版会、2007年 ヘンリー・スミス『広重 名所江戸百景』岩波書店、1992年 渡邊晃『浮世絵でたどる！ 江戸の凸凹地形散歩』山川出版社、2023年 そのほか個別の論文等については、授業中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回授業についての質問・コメントをクラスウェブから提出してもらう。次の回以降の授業内およびクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。		
8. 成績評価の方法 発表内容50%、ディスカッションにおける発言、参加度50%。 発表は適切に資料を用いて、作品について調査し、考察できているか、またその内容をわかりやすく発表できているかによって判断する。		
9. その他 心身の条件等により、受講に際して特別の配慮が必要となる場合は、履修を検討している際にも、また履修登録後にも、hioki@meiji.ac.jpへ相談してください。授業資料や板書等について、文字の大きさや字体、色などに配慮することなどが可能です。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	蛭川 立
1. 授業の概要・到達目標 脳神経科学と意識科学の基礎を学ぶ。イギリスで出版されている人文科学系の超小型入門シリーズ「A Very Short Introduction」は、日本語では「〈一冊でわかる〉」シリーズとして翻訳されている。このうち「脳」と「意識」の二冊をテキストにして輪読する。全体として、脳神経系の生化学から、知覚や認知、意識と自我、そして夢や変性意識状態へと議論を進めるが、具体的な内容については、「授業内容」を参照のこと。		
2. 授業内容 第1回：脳を考える 第2回：体液から細胞へ 第3回：脳の中の情報伝達 第4回：ビッグバンからビッグブレインまで 第5回：感覚・知覚・行為 第6回：記憶はこうしてできる 第7回：なぜ意識は謎なのか 第8回：人間の脳 第9回：時間と空間 第10回：壮大な錯覚 第11回：自我 第12回：意識的な意志 第13回：変性意識状態 第14回：意識の進化		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予備知識は必要ないが、高校生でいどの生物学の知識があれば、なおよい。		
5. 教科書 オーシェイ, M., 山下博志（訳）(2009). 『一冊でわかる 脳』岩波書店. （原書は、O'Shea, M. (2005). <i>The Brain: A Very Short Introduction</i> . Oxford University Press.) ブラックモア, S., 篠原幸弘・筒井春香・西堤優（訳）(2010). 『一冊でわかる 意識』岩波書店. （原書は：Blackmore, S. (2005). <i>Consciousness: A Very Short Introduction</i> . Oxford University Press.)		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。		
8. 成績評価の方法 演習に出席して発表しディスカッションを行う（100%）		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	堀口 悦子
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>【授業の概要】 本ゼミナールでは、アメリカのフェミニズムの歴史を、教科書を用いて概観してみよう。「フェミニスト」とは誰か、という問題について、テキストを読みながら、「ミソジニー」など関連の問題を含めて学んでいく。「フェミニスト」は怖い、などのイメージがあるだろうが、それはなぜ、そう思うのだろうか。深く考えてみよう。</p> <p>大阪なおみ、ローザ・パークス、アンジェラ・Y・デービス、ハウナニ・ケイ・トラクス、ルース・バイダー・ギンズバーグなどの名前を知っていたか。教科書を通して、10名の女性を知ろう。</p> <p>【到達目標】 到達目標は、テキストを読むことで、ジェンダーを含めた、多様な考え方を学ぶことである。また、実践として、外部に向けてのワークショップなどを行い、積極的にプレゼンテーションができるようにすることである。随時、感想文など、書く力をつける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。</p> <p>【外部活動】 11月の週末には、東京ウィメンズプラザ（都内表参道駅下車）のフォーラムまつりで、ゼミ生参加のワークショップを行う。参加費は無料。交通費は必要である。</p> <p>11月か12月の土曜日の本学部の「学の情コミ 研究交流祭」にも、ゼミとして報告・参加する。</p> <p>そのほか、大学生として参加する意義のあるワークショップには、積極的に参加したい。</p> <p>以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。東京ウィメンズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているので、こちらもぜひ、活用してほしい。</p> <p>【要望】 学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的に、やる気がある学生を求める。積極的になくても、やる気がなくても、本ゼミに入れば、心持ちに変化が生じることを願う。</p> <p>各イベントの参加したのち、その「参加の記録」をレポートとして書いてもらう。自分及び自分のチームが報告するだけでなく、他の人や団体の報告にも関心を持ってほしい。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 インTRODクダクシヨウ：フェミニズムとは第一波フェミニズムと第二波フェミニズムー女性参政権の歴史など</p> <p>第2回 教科書の報告と検討(1)・チームごとの研究</p> <p>第3回 教科書の報告と検討(2)・チームごとの研究</p> <p>第4回 教科書の報告と検討(3)・チームごとの研究</p> <p>第5回 教科書の報告と検討(4)・チームごとの研究</p> <p>第6回 教科書の報告と検討(5)・チームごとの研究</p> <p>第7回 教科書の報告と検討(6)・チームごとの研究</p> <p>第8回 教科書の報告と検討(7)・チームごとの研究</p> <p>第9回 教科書の報告と検討(8)・チームごとの研究</p> <p>第10回 教科書の報告と検討(9)・チームごとの研究</p> <p>第11回 教科書の報告と検討(10)・チームごとの研究</p> <p>第12回 チームごとの研究</p> <p>第13回 チームごとの研究</p> <p>第14回 チームごとの研究・まとめ</p> <p>関連する映画などを鑑賞する予定である。</p> <p>予定は変更する可能性もある。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに関心を持とう。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>太宰治『人間失格』を読んでおいてください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>『私たちが声を上げるとき アメリカを変えた10の問い』和泉真澄・坂下史子・土屋和代・三牧聖子・吉原真里著 集英社新書 2022年</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>『私たちに言葉が必要だ フェミニストは黙らない』イ・ミンギョン著 すんみ、小山内園子訳 タバックス</p> <p>『差別はたいがい悪意のない人がする』キム・ジハ著、尹治景訳、大槻書店</p> <p>『女嫌い』上野千鶴子、朝日文庫</p> <p>『早く絶版になってほしい#駄言辞典』日経BP</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>随時、課題へのフィードバックを行う。最終のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>毎回のゼミへの参加姿勢40%、課外活動等への参加40%、提出物20%</p>		
<p>9. その他</p> <p>映画やドラマを観たり、小説や漫画を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に観に行ったり、してほしい。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	宮川 渉
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>音楽は私たちの生活のあらゆる場面に存在します。音楽はそれが生まれた環境と密接に結びついています。それ故、音楽の研究をすることはその社会の在り方を知ることもつながります。ある音楽作品の特徴をどのように定義できるか。なぜヒット曲が生まれるのか。このような問いに答えを見出すためには、音楽の知識を深めるにとどまらず、その背景にある社会、歴史、文化を知ることも重要です。このゼミナールでは、楽曲分析や音楽の効果など様々な角度から音楽を研究することを目指します。まずは、その研究を行う上で必要となる方法論や音楽理論を紹介します。また音楽研究に関連する文献講読も行い、これらを通じて音楽に関する知識や研究方法などを修得することを目的とします。同時に取り組みテーマについて受講生と議論し、できるだけ早い段階で研究の方向性を定め、各自、研究に取り組みます。次にプレゼンとディスカッションを行い、その研究成果や問題点などを明らかにした上で、最終的にレポートとしてまとめます。</p> <p>このゼミナールを通じて音楽は実践すること以外にも、研究する楽しみ方もあることを是非学んでいただきたいです。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 aのみ：イントロダクシヨウ</p> <p>第2回 文献講読(1)</p> <p>第3回 楽曲分析</p> <p>第4回 音楽理論(1)</p> <p>第5回 音楽理論(2)</p> <p>第6回 文献講読(2)</p> <p>第7回 文献講読(3)</p> <p>第8回 文献講読(4)</p> <p>第9回 文献講読(5)</p> <p>第10回 中間発表</p> <p>第11回 レポートの書き方</p> <p>第12回 研究課題準備</p> <p>第13回 プレゼン(1)</p> <p>第14回 プレゼン(2)</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>授業内容は変更することがあります。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>研究テーマの準備や作業は授業時間だけでは不十分なので、授業時間外にも取り組む意欲と時間が必要です。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>特にありません。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>必要に応じて参考文献を紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>課題へのフィードバックは基本的に授業内で行うが、必要に応じて授業時間外にもOh-o!Meijiなどを活用して行います。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>授業内での取り組み30%、成果物（プレゼン、制作物、レポート）70%</p>		
<p>9. その他</p> <p>音楽経験者、未経験者に関係なく、いろいろなものに好奇心があり、やる気のある積極的な人を歓迎します。音楽理論などを説明する上では楽譜を使用することがあります。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	山内 勇
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 このゼミでは、イノベーション・プロセスに関する経営学的・経済学的な考え方を学習します。どのように付加価値を高め、消費者のニーズを満たしていくかという観点から検討を行っていきます。特に、企業のイノベーション活動を定量的に把握し分析することで、イノベーションの収益性を高めていくためのマネジメントについて学んでいきます。		
【到達目標】 ゼミでの活動を通じて、イノベーション・プロセスを客観的に理解できるようになることを目標としています。また、データのクリーニングから接続、分析まで、実証分析を行うために必要となる一連のスキルを身に付けることも、このゼミの大きな目的です。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 グループワーク：差別化と市場創造へのアプローチ 第3回 グループワーク：知識創出のマネジメント 第4回 グループワーク：イノベーションの源泉を生む消費者 第5回 グループワーク：ユーザーイノベーション 第6回 グループワーク：知的財産制度 第7回 グループワーク：データクリーニング 第8回 グループワーク：データ接続 第9回 グループワーク：マーケティング・コンセプト 第10回 グループワーク：プロダクト・ライフサイクル 第11回 グループワーク：市場分析 第12回 グループワーク：回帰分析の方法 第13回 グループワーク：分析結果の解釈 第14回 最終報告		
3. 履修上の注意 発言のない学生は授業に貢献していないものとみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：演習で扱うテーマについて、議論に必要な情報を参考書等から収集しておくこと。また、担当者は報告資料を用意すること。 復習：演習での報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にかすこと。		
5. 教科書 指定しない（資料を配付する）。		
6. 参考書 『効果検証入門～正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎』安井翔太著、株式会社ホクソエム 『マーケティング・サイエンス入門』古川一郎・守口剛・阿部誠著、有斐閣アルマ 『The Economics of Innovation: An Introduction』G. M. Peter Swann 著、Edward Elgar Pub.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 報告内容（50%）、授業への貢献（50%）		
9. その他 データ分析のためにノートパソコンを持参してもらうことがあります。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2 単位	2 年次	脇本 竜太郎
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この演習の目標は、社会心理学の研究法を学ぶことである。特に、構成概念の相関関係を検討する手法について学ぶ。変数間の関連を検討するにはまず、変数そのものを正確に測定することが必要であり、そのためには良い測定尺度が求められる。実際に心理尺度を作成しながら、尺度公正の手法や信頼性と妥当性を検討する方法についても学ぶ。さらに、調査を企画・実施し、得られたデータをオープンソースの統計解析・開発環境であるRを用いて分析する。		
【到達目標】 ①社会心理学研究法の基礎を身に着ける。 ②基礎的な調査の手法を理解できる。 ③尺度構成の方法を理解できる ④Rによって基礎的な分析を行うことができる。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 実証研究の論理 第3回 問題の設定と仮説の構成 第4回 目的に応じた研究法の選択 第5回 測定の基礎 第6回 尺度構成 第7回 尺度の作成①：項目作成のためのブレインストーミング 第8回 尺度の作成②：項目の吟味 第9回 質問紙作成 第10回 Rによる分析講習（データハンドリング） 第11回 Rによる分析講習（記述統計、検定） 第12回 データ分析実習 第13回 発表スライド作成 第14回 研究結果発表、春学期総括		
3. 履修上の注意 ・授業後半は受講者自身が調査を企画するため、積極的な参加が求められる。 ・脇本が担当する問題発見テーマ演習AとBは別々の授業ではあるが、大枠は共通している。問題発見テーマ演習は様々な学問分野に触れる機会なので、脇本のテーマ演習AとBを同時に履修することは勧めない。 ・ファイルを任意の場所にダウンロードできる、添付ファイルをメールで送ることができる、ワードやエクセルを普通に使うことができるといった程度の初歩的コンピューターリテラシーを前提として授業を進める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レクチャーの際には事前に教科書を読んでおくこと。授業時間外でもグループでの話し合いや作業の時間が必要になる。		
5. 教科書 『社会心理学研究入門 補訂新版』安藤清志・村田光二・沼崎誠（編）東京大学出版会		
6. 参考書 授業中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 演習への参加度 50% 提出物 50%		
9. その他		

問題発見テーマ演習 B

2 単位

2 年次

和田 悟

1. 授業の概要・到達目標

本ゼミナールは、近年注目されている、IoTなど今後の社会に大きな影響をあたえる技術動向について実際に手を動かしながら、その一端を知るための授業です。特に、このうちIoTを念頭に個人でも容易に入手可能な機器を実際に使いながら、どのような技術かについて学びます。実習では、人気のあるマイコンボード（Arduino互換機）を使います。ハンダごて無しで、簡単な電子回路を組み、必要なプログラミングを行い、実際に動かしてみます。みなさんのやりたいことを実現する選択肢を広げるためにも楽しんで取り組んでほしいと思います。

実習を通じて、話題になっている技術の仕組みについての基本的な洞察を得ること、自分自身でも簡単な回路が組めるようになることを到達目標とします。

2. 授業内容

第1回 イントロダクション、使用する開発環境の準備、教材配布
 第2回 LED制御で学ぶ回路とプログラム・・・基礎
 第3回 LED制御手学ぶ回路とプログラム・・・応用(1)
 第4回 ボタンを使った制御 / シリアル通信の利用
 第5回 プログラミングの基礎 (1) 制御構造 (条件分岐、繰り返し)
 第6回 ブザーを使って音を出すなどその他の出力の利用
 第7回 プログラミングの基礎 (2) 関数の定義など
 第8回 アナログ入力の利用(1)・・・可変抵抗、光センサーなど
 第9回 アナログ入力の利用(2)・・・センサーの値を利用するプログラムを考える
 第10回 I2C通信と液晶表示器・・・回路の作成と動作確認
 第10回 I2Cデバイスの追加 温湿度センサーの追加
 第11回 ここまでのまとめと調整
 第12回 他のデバイスとの通信 (音声合成 または Wi-Fi接続)
 第13回 他のデバイスとの通信 (PCとの連携など)
 第14回 まとめ

3. 履修上の注意

授業中にプログラムや電子回路を組んだりすることになります。サンプルプログラムを動かしたり、改良しながら学習を進めます。事前にプログラミングに関する知識がなくても取り組みますが、授業中はプログラミング言語の文法などについてあまり時間を割くことはできないので、必要に応じて、プログラミングに関する知識を自分自身で補う努力をしてほしいと思います。

授業では学生同士で互いに助け合いながら課題に取り組んでもらいます。興味とやる気さえあれば未経験でも大丈夫でしょう。実際に集まった受講者と相談しながら、じっくり進めるようにします。逆にこの授業は入門レベルなので、この分野について経験や経験がある人にはもの足りないかもしれません。取立て履修する場合には、他の学生へのサポートなどで力を発揮してください。

この授業は継続して回路を組み上げてゆくので、毎回継続して授業に出席することを前提としています。継続して出席できる方のみ履修をしてください。特に初回は欠席しないようにしてください。

実習で使うPCは各自で持参してください。PCへの開発環境のインストールなど事前に準備して欲しいこともあるので、春学期終わり頃からのOh!Meijiのお知らせに注意してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

夏休みに、初回授業までに準備すべきこと（開発のインストールなど）を指示します。必ず事前に行っておいてください。

5. 教科書

必要な資料は配付しますが、初心者は参考書に挙げた『Arduinoをはじめよう』の入手をすすめます。

6. 参考書

『Arduinoをはじめよう』第3版、Massimo Banzi著 オライリージャパン
 『エレクトロニクスをはじめよう』Forrest M. Mims III著、オライリージャパン
 『ArduinoとProcessingで始めるプロトタイピング入門』、青木直史、講談社
 (『Processingをはじめよう』、Casey Reasほか、オライリージャパン)

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題は、授業中に指示するプログラミングや回路の組み立てであるが、これらは原則として授業中にその場でフィードバックし、授業時間内に講評・まとめを行う。

8. 成績評価の方法

宿題への取組 (30%)、授業内での課題への取組 (50%)、応用的課題への取組 (20%)
 ※ 授業内での課題の取り組みが重要なので、必然的に出席すること自体がとても重要となります。

9. その他

マイコンボードの開発環境などを使うので、USBポートを備えた自分のノートパソコンを持参することを原則とします。実習で使うセンサーなどの機材は、秋葉原で安価に手に入るものです。皆さん自身の発想で新しいものを実現できるように頑張りましょう。